

令和4年度 事務事業の点検及び評価報告書

【評価内容】 評価：事業数：()＝令和3年度評価事業数：前年比増減

S	=	1事業	(1)	0
A	=	25事業	(17)	8
B	=	23事業	(29)	△ 6
C	=	11事業	(13)	△ 2
D	=	1事業	(1)	0
合計	=	<u>61事業</u>	(61)	0

※ 事業数(令和3年度事業数：61事業→令和4年度事業数：61事業)

令和 5 年 9 月 恩納村教育委員会

1 はじめに

教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況についての点検、評価を行い、その結果を報告書として作成し、議会に提出するとともに、公表することになっております。

(地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)：平成 27 年 4 月 1 日改正)

そのため、恩納村教育委員会では、効果的かつ効率的な教育行政の推進に資するとともに、村民への説明責任を果たしていくために、同法第 26 条の規定に基づき、教育委員会の事務の点検及び評価を行い、その評価に際しては、教育に関する学識経験者で構成される外部評価委員会を設置しその知見の活用を図りました。

この報告書は、毎年、作成し公表しておりますが、教育委員会では、報告書の内容充実に努め、村民にわかりやすい報告書にするために、必要な検討を加えていくことにしています。

また、点検評価の実施を通じて、教育施策の効果的な検証と改善を図りながら、事務事業の点検及び評価に関する結果を報告書としてまとめ、議会に提出した後、村民に公表(HP 等)するとともに、翌年度の施策、事業の改善に役立てるものとし、本村教育行政の着実な推進につなげていきたいと考えております。

(参考)

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」抜粋 平成 27 年 4 月 1 日改正

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第 26 条 教育委員会は、毎年その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。（平成 20 年 4 月 1 日施行）

2 教育委員会の活動状況について

教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、首長から独立した行政委員会として各都道府県、市町村に設置されています。委員は教育長を含め 5 名で組織され、その合議の下に、学校その他教育機関の設置及びその管理や廃止に関することや教育財産の管理、学校の教育課程、学習指導、生徒指導等に関することなど教育行政の執行管理を行っています。

通常の業務については、教育長を通して、業務の執行管理を行います。教育行政の基本的な方針や委員会規則や規程の制定、学校や教育機関の設置や廃止、教育機関の職員の任免、事務事業の評価などは教育長に委任することはできず、委員会自らが執行管理をすることになっています。

(1) 教育委員の任命状況

教育委員は、地方公共団体の長の被選挙権を有する者で、人格が高潔で、教育、学術及び文化に関し識見を有する者の中から、地方公共団体の長が、議会の同意を得て、任命します。委員のうち、過半数が同一政党に所属することはできません。更に、地方公共団体の長は、委員の任命に当たって、年齢・性別・職業等に偏りが生じないように配慮するとともに、保護者である者が含まれるようにしなければならないとされ、村教育委員の任命状況は、保護者1名を含めた4名となっており、性別及び年齢等に偏りが生じないように構成に配慮しております。村教育委員会は教育長と教育委員により構成される合議体です。

令和4年度の教育長・教育委員の任期期間は次のとおりです。(勤続年月数：令和5年3月31日現在)

役職	氏名	任期	教育委員としての経歴		備考
			初就任	勤続年月数	
教育長	當山 欽也	令和2年4月1日～令和5年3月31日	平成29年	2期 6年	
委員	宇江城 明美	令和4年4月1日～令和8年3月31日	令和4年	1期 1年	
委員	大城 肇	令和2年4月1日～令和6年3月31日	平成13年	4期 12年7カ月	
委員	吉山 佳子	平成31年4月1日～令和5年3月31日	平成27年	2期 8年	教育長職務代理者(平成30年10月1日付)就任
委員	照屋 友彦	令和3年7月1日～令和7年6月30日	令和3年	1期 1年9カ月	

(2) 教育委員会の会議

教育委員会は、恩納村教育委員会会議規則に基づいて毎月21日を定例教育委員会の開催日として会議を開催するほか、緊急を有する事案が出た場合は適宜、臨時会を開催し、必要事項を審議し、決定しています。令和4年度の教育委員会の会議開催は次のとおりです。

会議の名称	日時	場所	出席委員	案件等
4月定例会	4月21日(木) 10:00～11:30	3階委員会室	5人	1. 前回会議概要の承認について 2. 教育長の業務報告について 3. 報告第1号 恩納村教育相談員委嘱について 4. 議案第1号 恩納村教育相談員設置要綱の一部を改正する要綱について 5. 議案第2号 恩納村学校運営協議会委員の委嘱について 6. 議案第3号 恩納村立仲泊小学校特別教室棟の財産処分及び財産移管について 7. その他の協議・連絡事項 ・全国学力調査について ・うんな中学校卒業生の進路決定状況について ・学校訪問について ・文化情報センター50万人達成の報告 他

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
5 月定例会	5 月 20 日(金) 9:00～10:10	3 階委員会室	5 人	1. 前回会議概要の承認について 2. 教育長の業務報告について 3. 議案第 4 号 赤間総合運動公園機能強化整備計画策定委員会設置規程の一部を改正する規程について 4. 議案第 5 号 恩納村教育委員会所管施設の指定管理者審査委員会の組織及び運営に関する要綱の一部を改正する要綱について 5. 議案第 6 号 恩納村会計年度任用職員の給与の決定及び支給等に関する規則の一部を改正する規則について 6. 議案第 7 号 特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例に係る意見の申出について 7. 議案第 8 号 指定研究推進事業実施要綱の一部を改正する要綱について 8. その他の協議・連絡事項 ・子ども科学教室について ・学校の出欠状況について ・児童生徒の感染状況について ・全国学力調査について ・問題行動について
6 月定例会	6 月 21 日(火) 9:00～16:00	3 階委員会室	4 人 (1 人 Web)	1. 前回会議概要の承認について 2. 教育長の業務報告について 3. 報告第 2 号 恩納村学校運営協議会委員の追加委嘱の報告について 4. 議案第 9 号 恩納村学校運営協議会委員の追加委嘱について 5. 議案第 10 号 恩納村教育委員会事務事業点検外部評価委員会の委員の委嘱について 6. 議案第 11 号 令和 3 年度恩納村教育委員会事務事業の点検及び評価報告書について 7. その他の協議・連絡事項 ・未来塾について ・強化支援訪問について ・学校でのコロナウイルス関連について ・問題行動について ・集団宿泊学習について ・プール開放事業について ・喜瀬武原小学校の今後の活用について 他

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
6 月臨時会	6 月 28 日 (火) 9:00～12:00	3 階委員会室 (1 名 web)	5 人	1. 議案第 1 1 号 令和 3 年度恩納村教育委員会事務事業の点検及び評価報告書について
7 月定例会	7 月 21 日 (木) 10:00～12:00	3 階委員会室	5 人	1. 前回会議概要の承認について 2. 教育長の業務報告について 3. 議案第 1 2 号 恩納村教育委員会公印規程の一部を改正する規程について 4. 議案第 1 3 号 恩納村立学校処務規程の一部を改正する規程について 5. 議案第 1 4 号 恩納村立幼稚園管理規則の一部を改正する規則について 6. 報告第 3 号 令和 4 年第 2 回 (3 月) 恩納村議会定例議会 一般質問答弁書 7. その他の協議・連絡事項 ・ 1 学期修了式について ・ 教科支援訪問の報告 ・ 学校の出欠状況 ・ 児童生徒の感染状況について ・ 問題行動について ・ 学びの確かめについて
8 月定例会	8 月 22 日 (月) 10:00～12:10	3 階委員会室	5 人	1. 前回会議概要の承認について 2. 教育長の業務報告について 3. 議案第 1 5 号 恩納村教育支援委員会委員の委嘱について 4. 議案第 1 6 号 特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例に係る意見の申し出について 5. 議案第 1 7 号 恩納村教育委員会所管施設指定管理者審査委員の委嘱について 6. 議案第 1 8 号 令和 4 年度恩納村一般会計 4 号補正に対する意見を村長に申し出るにつき議決を求めることについて 7. 報告第 5 号 令和 4 年度恩納村一般会計 1 号補正の報告について 8. その他の協議・連絡事項 ・ 事務事業点検報告外部評価委員会答申について ・ 喜瀬武原幼稚園、小学校アンケートについて ・ 学校運営協議会の進捗について ・ 問題行動について ・ 児童生徒の感染状況について ・ 令和 4 年度第 1 回沖縄県児童生徒質問調査について 他

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
9 月定例会	9 月 22 日(木) 10:00～12:00	3 階委員会室	4 人	1. 前回会議概要の承認について 2. 教育長の業務報告について 3. 議案第 1 9 号 赤間総合運動公園機能強化整備計画策定委員の委嘱について 4. 議案第 2 0 号 恩納村立中学校における部活動の在り方に関する方針について 5. 報告第 6 号 恩納村学校運営協議会委員の追加委嘱の報告について 6. その他の協議・連絡事項 ・各学校の状況について ・児童生徒の感染状況について ・未来塾について ・生徒指導について ・スクールバスのマナーについて ・サイエンスフェスタについて ・令和 4 年度沖縄県市町村教育委員会協議会、研修会の出欠確認 ・令和 4 年度市町村教育委員会、教育長・教育委員研修会について ・令和 6 年度文教施策とその他予算措置に関する要請事項について ・令和 4 年度中頭地区市町村教育委員会講演会について ・美ら島沖縄文化祭について
10 月定例会	10 月 21 日(金) 9:00～10:00	3 階委員会室	5 人	1. 前回会議概要の承認について 2. 教育長の業務報告について 3. 報告第 7 号 恩納村成人式の式典名称及び令和 5 年開催要項（案）について 4. その他の協議・連絡事項 ・各学校の状況 ・うんな中学校生徒の活躍報告 ・未来塾について ・各学校のコロナ状況 ・生徒指導関係 ・R 4 教科支援訪問について ・サイエンスフェスタについて

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
11 月定例会	11 月 21 日(月) 10:00～12:00	3 階委員会室	4 人	1. 前回会議概要の承認について 2. 教育長の業務報告について 3. 議案第 2 1 号 恩納村体育施設の指定管理者の指定について 4. 議案第 2 2 号 令和 4 年度恩納村一般会計 5 号補正予算に対する意見を村長に申し出るにつき意見を求めることについて 5. 報告第 8 号 令和 4 年第 7 回（9 月）恩納村議会定例会 一般質問書 6. その他の協議・連絡事項 ・各学校の状況 ・うんな中学校生徒の活躍 ・各学校のコロナの状況 ・生徒指導関係 ・SDG s パートナースhipプロジェクト発表会について ・スクールバスのバス停について
12 月定例会	12 月 21 日(水) 10:00～12:00	3 階委員会室	5 人	1. 前回会議概要の承認の件 2. 教育長の業務報告 3. 議案第 2 3 号 令和 4 年度公立学校管理職人事異動の承認について 4. 議案第 2 4 号 恩納村立小中学校の通学路指定等に関する要綱の制定について 5. その他の協議・連絡事項 ・各学年の状況 ・令和 5 年度人事ヒアリングについて ・各学校のコロナ状況 ・家庭地域部会について ・生徒指導関係 ・児童生徒質問紙調査について ・O I S T の状況について ・仲泊小学校の活動について

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
1 月定例会	1 月 19 日(木) 10:00～12:00	3 階委員会室	5 人	1. 前回会議の概要の承認の件 2. 教育長の業務報告 3. 報告第 9 号 令和 4 年度第 1 0 回（1 2 月）恩納村議会定例会 一般質問書 4. その他の協議・連絡事項 ・学校の状況について ・学校のコロナ状況 ・O I S T 壁プロジェクト ・生徒指導関係 ・犯行予告メールについて ・赤間運動公園でのキャンプについて ・人形劇公演会について ・はやぶさ 2 の展示会について 他
2 月定例会	2 月 21 日(火) 10:00～13:00	3 階委員会室	5 人	1. 前回会議概要の承認 2. 教育長の業務報告 3. 議案第 2 5 号 恩納村公民館等施設整備事業補助金交付要綱の制定について 4. 議案第 2 6 号 恩納村学力向上支援員配置要綱の制定について 5. 議案第 2 7 号 恩納村日本語通級指導教室補助員配置要綱の制定について 6. 議案第 2 8 号 恩納村教育委員会の権限に関する事務の一部委任等に関する規則の一部を改正する規則について 7. 議案第 2 9 号 恩納村奨学資金貸与施行規則の一部を改正する規則について 8. 議案第 3 0 号 恩納村奨学資金給付施行規則の一部を改正する規則について 9. 議案第 3 1 号 令和 5 年度恩納村立喜瀬武原幼稚園の休園の承認について 10. 議案第 3 2 号 令和 5 年度恩納村立喜瀬武原小学校の休校の承認について 11. 議案第 3 3 号 令和 5 年度公立学校管理職の定期人事異動の内示（案）の承認について 12. 議案第 3 4 号 令和 5 年度教育委員会職員に係る人事異動の内示（案）について 13. 議案第 3 5 号 恩納村教育委員会委員の辞職の同意について 14. 議案第 3 6 号 令和 4 年度恩納村一般会計 9 号補正予算に対する意見を村長に申し出るにつき意見を求めることについて 15. 議案第 3 7 号 令和 5 年度恩納村一般会計予算（案）に対する意見を村長に申し出るにつき意見を求めることについて 16. その他の協議・連絡事項 ・恩納村立幼稚園預かり保育休業日の改善に向けて 他

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
3 月定例会	3 月 20 日（月） 10:00～12:19	2 階庁議室	5 人	1. 前回会議概要の承認 2. 教育長の業務報告 3. 議案第 3 8 号 令和 5 年度恩納村立各学校における学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の委嘱について 4. 議案第 3 9 号 恩納村特別支援教育就学奨励費給付要綱の一部改正について 5. 議案第 4 0 号 恩納村要保護及び準要保護児童生徒認定要綱の一部改正について 6. 議案第 4 1 号 恩納村スポーツ推進委員の委嘱について 7. 議案第 4 2 号 恩納村学校支援地域本部地域コーディネーターの委嘱について 8. 議案第 4 3 号 恩納村文化情報センター運営協議会委員の委嘱について 9. 議案第 4 4 号 恩納村学校支援地域本部運営委員会委員の委嘱について 10. 議案第 4 5 号 令和 5 年度恩納村「ことばの教育巡回指導員」の委嘱について 11. 議案第 4 6 号 令和 5 年度恩納村スクールカウンセラーの委嘱について 12. 議案第 4 7 号 恩納村学校 I C T 支援員配置業務発注要綱の制定について 13. 議案第 4 8 号 恩納村立学校給食センター運営要綱の一部を改正する要綱について 14. 議案第 4 9 号 令和 5 年度恩納村立山田幼稚園の休園の承認について 15. 議案第 5 0 号 万座毛整備検討委員の委嘱について 16. その他の協議・連絡事項 ・喜瀬武原校跡地利用の児童デイサービスの情報提供について ・令和 4 年度沖縄県学力到達度調査結果について

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
【参考】 令和４年度 第１回 恩納村 総合教育会議	５月２０日（金） １０：２０～１１：１３	３階委員会室	村長 教育長 教育委員 ４名 計 ６名 （事務局） 教育委員会 ５名 総務課 ２名	報告事項 １． 恩納村総合教育会議について 付議案件 １． 小学校の給食費の無償化について ２． 効率的かつ効果的な学校施設等の整備について ３． その他情報及び意見交換 第３期恩納村教育大綱を定めることについて 他
【参考】 令和４年度 第２回 恩納村 総合教育会議	１０月２１日（金） １０：３５～１１：５３	３階委員会室	村長 教育長 教育委員 ４名 計 ６名 （事務局） 教育委員会 ５名 総務課 ２名	付議案件 １． 第３期恩納村教育大綱策定に向けて ２． 令和５年度喜瀬武原幼稚園廃園及び喜瀬武原小学校廃校について ３． その他情報及び意見交換

なお、教育委員会で令和４年度中に審議された案件(議案)を、分類すると次のようになります。（議事概要の承認、業務報告等定型的なものは除く。）

条例関係	規則・規程・要綱等	人事・選任・委嘱関係	その他(予算等)	合計
２ 件	１ ９ 件	１ ８ 件	１ １ 件	５ ０ 件

(3) 主催行事や学校行事への参加状況

教育委員会には教育委員会の行事や学校の行事など多種多様な行事があります。教育委員は、本村の教育行政の最高意思決定機関として、それらの行事に参加し、学力向上やいじめ問題等の状況把握に努め、その結果を教育行政に反映させ、重要事案においては、教育総合会議での報告を行っております。

令和4年度における村及び教育委員会主催行事や学校行事等各種行事への教育委員の参加状況は、次のとおりです。

なお、令和4年度は新型コロナウイルス感染症感染防止対策により、主催行事や学校業行事の参加は昨年と同様にこれまでと比較して少なくなっています。

期 日	場 所	行事等の名称	備 考
令和4年4月1日	役場 2 階会議室	令和4年度村職員辞令交付式(村辞令交付)	當山教育長
4月7日	うんな中学校	入学式	當山教育長（告示）・教育委員
4月8日	安富祖小学校体育館 恩納小学校体育館 仲泊小学校体育館 山田小学校体育館	入学式	宇江城委員(告辞) 照屋委員(告辞) 大城委員(告辞) 吉山委員(告辞)
4月11日	安富祖幼稚園 恩納幼稚園 仲泊幼稚園 山田幼稚園	入園式	宇江城委員(告辞) 照屋委員(告辞) 大城委員(告辞) 吉山委員(告辞)
5月17日	仲泊幼小学校	学校訪問計画	當山教育長・教育委員
5月19日	山田幼小学校	学校計画訪問	當山教育長・教育委員
5月24日	安富祖幼小学校	学校計画訪問	當山教育長・教育委員
5月25日	恩納幼小学校	学校計画訪問	當山教育長・教育委員
5月31日	うんな中学校	学校計画訪問	當山教育長・教育委員
10月2日	仲泊幼小学校 安富祖幼小学校	運動会 運動会	大城委員 當山教育長・宇江城委員
10月20日	ゆうなホール	村童話・お話・意見発表大会	當山教育長・教育委員
10月22日	コミュニテイ広場	うんなまつり（オープニングセレモニー）	當山教育長・教育委員
10月23日	恩納幼小学校 山田幼小学校	運動会 運動会	吉山委員 照屋委員
11月5日	読谷村文化センター	中頭地区中学校総合文化祭	當山教育長・教育委員

期 日	場 所	行事等の名称	備 考
11 月 22 日	うんな中学校	恩納村教科指定研究実践報告会	當山教育長・教育委員
12 月 1 日	うんな中学校	S D G s パートナーシッププロジェクト発表会	當山教育長・教育委員
令和 5 年 1 月 4 日	コミュニティーセンター	二十歳を祝う集い	當山教育長（祝辞）・教育委員
1 月 28 日 (第 25 回村産業まつり)	赤間多目的運動場	恩納村教育の日関連表彰式（学校ボランティア表彰）	當山教育長・教育委員
1 月 30 日	役場 1 階会議室	恩納村教育の日関連表彰式 4 名（教職員功労）	當山教育長
2 月 10 日	沖縄市民会館	中頭地区学力向上実践推進大会	當山教育長・教育委員
3 月 2 日	うんな中学校	未来塾開講式	當山教育長・教育委員
3 月 11 日	うんな中学校	卒業式	當山教育長（告示）・教育委員
3 月 22 日	安富祖幼稚園 恩納幼稚園 仲泊幼稚園 山田幼稚園	修了式	當山教育長(告辞) 照屋委員(告辞) 大城委員(告辞) 吉山委員(告辞)
3 月 23 日	安富祖小学校体育館 恩納小学校体育館 仲泊小学校体育館 山田小学校体育館	卒業式	當山教育長(告辞) 照屋委員(告辞) 大城委員(告辞) 吉山委員(告辞)

（４） 研修会・懇談会

教育行政の推進には教育委員の資質向上は必要不可欠です。そのため、各種の研修会に積極的に参加し、他市町村の状況を把握すると共に教育委員としての知識の向上に努めています。

令和 4 年度の研修会等への出席状況は、次のとおりです。

なお、令和 4 年度は新型コロナウイルス感染症感染防止対策により、会議の参加はこれまでと比較して少なくなっています。

日 時	場 所	研修会等の名称	備 考
令和 4 年 4 月 6 日	那覇市教育委員会	沖縄県市町村教育委員会連合会 令和 3 年度会計監査	當山教育長
4 月 8 日	新型コロナの影響により書面決議	中頭地区市町村教育委員会協議会第 1 回幹事会	吉山委員（職務代理者）
4 月 20 日	W e b 開催	沖縄県市町村教育委員会連合会第 1 回理事会	吉山委員（職務代理者）
5 月 20 日	新型コロナの影響により書面決議	令和 4 年度中頭地区市町村教育委員会協議会総会	

日 時	場 所	研修会等の名称	備 考
5 月 26 日	新型コロナの影響により書面決議	令和 4 年度沖縄県市町村教育委員会連合会定期総会	
7 月 15 日	中頭教育事務所	中頭地区市町村新任教育委員研修会	吉山委員・宇江城委員
8 月 19 日	那覇市役所	沖縄県市町村教育委員会連合会第 2 回理事会	吉山委員（職務代理者）
10 月 14 日	恩納村役場 2 階会議室	中頭地区市町村教育委員会協議会第 2 回幹事会	吉山委員（職務代理者）
10 月 28 日	パレット市民劇場	沖縄県市町村教育委員会協議会研修会	當山教育長・教育委員
令和 5 年 1 月 12 日	那覇市役所	沖縄県市町村教育委員会連合会第 3 回理事会	吉山委員
1 月 13 日	恩納村ふれあい体験学習センター	中頭地区市町村教育委員会協議会講演会	當山教育長・教育委員
1 月 25 日	新型コロナの影響によりオンライン	沖縄県教育委員会教育長・教育委員研修会	當山教育長・教育委員
2 月 17 日	恩納村役場 2 階会議室	中頭地区市町村教育委員会協議会第 3 回幹事会	吉山委員（職務代理者）・事務局

3 事務の点検評価について

令和 4 年度の事務の点検及び評価の項目は、前年に引き続き、効果的かつ効率的な事業の実施を行うため、前年度の課題克服に向けた取り組みとその結果を明確にし、その結果を踏まえて、事業効果を判断し、継続すべきか、規模拡大又は規模縮小、または廃止まで踏み込んで評価を行いました。

事業評価シートの項目は、前年と同じ「事業項目」、「実施目標」、「前年度の課題」、「課題克服に向けた取り組み」、「事業の成果」、「今後の課題」、「評価」、「総合判断」の 8 項目とし、毎年度事業項目の分類数を検討し、最小限の事業項目数に改めて事業評価シートを作成しております。

総合判断では、事業の成果と費用対効果を勘案し、

- ① 現状の内容で継続
- ② 事業規模を拡大又は縮小して継続
- ③ 事業の廃止

の 3 項目で判断しました。

事務事業の点検・評価は、前年度に実施した事業について、すでに現年度の事業が進んでいる時点で行われることから、課題に対する取り組みは既に評価の時点で事業が終了していた場合など当該年度では取り組めないこともあり、実質的な課題解決に対する取り組みは 1 年遅れになることがあります。この事業点検評価を翌年度の施策、事業の改善に役立てるものとします。

評価の方法については、次のとおり 5 段階で評価しました。

【5 段階評価の内容】

- S：目標以上に事業効果をあげることができた。
- A：目標が達成できた。
- B：目標が概ね達成できた。
- C：目標が一部しか達成できなかった。
- D：目標が達成できなかった。

以上によって評価された令和 4 年度事務事業の結果は次のとおりです。

事務事業評価シート

(1) 学校教育関係所管事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和4年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和4年度の取組み)	事業の成果 (令和4年度の成果)	今後の課題 (令和5年度の課題)	評価	総合判断
教育委員会研修事業 (仲村) No.1	各種の研修会に積極的に参加し、教育委員各自の教育に関する見識を高める。	課題に掲げていた村教育委員会独自の研修会を県・中頭の研修資料等の活用を図りながら開催し、教育施策に適切に反映させる。 また、社会教育委員との意見交換の場を調整し、社会教育分野の情報共有の充実を図る。	引き続き新型コロナウイルス感染症の影響があり、年度当初から一部研修会・会議等の書面及びWeb開催はあったものの、中旬頃から県・中頭地区の研修会が従来の形で予定通り開催されるようになった。	定例教育委員会の場合を活用した教育委員会の現状や村の課題等を共有する報告を行うことができた。 また、課題としていた社会教育委員との意見交換の場も調整がうまくいかず開催できなかった。	課題に掲げていた村教育委員会独自の情報交換の場を県・中頭の研修資料等の活用を図りながら開催し、教育施策の情報共有を図る。	B	①現状の内容で継続
コミュニティースクール設置事業 (本山・新垣) No.2	地域の住民の意見を学校経営に取り入れ、地域に開かれた学校づくりを推進するため、各学校に15名以内の学校運営協議会委員を配置する。	コロナ禍で、学校運営協議会が1度しか実施できなかった学校もあった。学校評価において、PDCAサイクルを実践し、より良い学校運営協議会となるようにする。	令和4年度も年度始めはコロナの影響があったものの、2回から3回にかけて全ての学校で開催することができ学校評価や教育活動、学校運営等課題に対して、改善策(C・A)が協議された。	PDCAサイクルを実践し、地域、保護者、有識者、学校と情報共有を図り、地域と共にある学校として取り組んだ。	より充実した学校運営協議会が開かれるよう、管理者研修会等で研修を行う。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和4年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和4年度の取組み)	事業の成果 (令和4年度の成果)	今後の課題 (令和5年度の課題)	評価	総合判断
校長会・教頭会 (本山・比嘉) No.3	教育関連法規の改定 や教育委員会による事 業説明、質疑・応答を通 して共通理解を図り、学 校経営に資する。 現場の課題について の情報交換を行い、課題 を明確にし、教育行政に 反映させる。	令和4年度に向け て、「with コロナ」も考 慮した学校経営につい ての準備が必要であ る。	コロナ禍が継続してお り、計画した学校教育に 変更が生じたが、コロナ 禍における学校教育の継 続に努めた。	各校長や教頭と課題 と成果について協議を 行った「協議・意見交換」 の時間において各校の 現状把握や要望を確認 し、進捗状況等を話し合 い、課題解決を図ること が出来た。	「教職員の働き 方改革」に関して、 文部科学省、県教 育委員会からの通 知等を共有し、本 村の教職員の働き 方改革を推進す る。	A	①現状の内容 で継続
教育相談事業 (比嘉) No.4	配慮を要する幼児・児 童・生徒とその保護者の 相談に応じ、必要な助言 をする。 学校からの派遣要請 を受け、不登校児童・生 徒の状況に沿った支援 を実施する。	教育相談員の相談の 対象が村内の幼小中の 園児・児童・生徒及びそ の保護者のみならず、 高校生とその保護者も 対象となっていること から、就学に悩む対象 の家庭へ情報が行き届 くよう取り組む。	不登校児童生徒への対 応を学校と連携を図り、 学校への登校支援の充実 を図った。又、学校・保 護者等との情報の共有を 図り、適切な対応で対象 児童生徒の就学意欲の向 上を図った。 【活動内容】 (令和4年度) <相談形態> ①来所相談 12 件 ②電話相談 3 件 ③訪問相談 30 件 ④巡回相談 18 件 <相談内容> ①いじめ 0 件 ②不登校 58 件 ③友人 0 件 ④教職員 3 件 ⑤学業・進路 0 件 ⑥家庭 2 件	不登校児童・生徒への 対応で、教育委員会内 での相談や相談員を学校 の依頼を受け派遣を行 った。継続的に相談を行 うことによって不登校 等の課題を抱えた児童 生徒に迅速に対応する ことができた。 また、保護者や教職員 に向けて便りを発行し、 相談業務の紹介に留ま らず、ストレスとの向き 合い方等について情報 を提供することができ た。	高校生とその保 護者も対象となっ ているが、現状と して、小中学生の 利用がほとんどで ある。学校のみな らず、関係機関と の連携を図り、本 事業の周知を行っ ていく。 引き続き課題を 抱えた児童生徒に 迅速かつ効果的に 出来るよう、組織 的な実践を図って いく。	B	①現状の内容 で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和4年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和4年度の取組み)	事業の成果 (令和4年度の成果)	今後の課題 (令和5年度の課題)	評価	総合判断
教育委員会学校計画訪問 (本山) No.5	村の教育施策との整合性及び校務全般の管理・運営状況を確認し、学校経営に資する。	コロナ禍によって、学校経営説明、講評等ができていない。校長会、教科支援訪問等で指導助言を行う。	コロナ禍により授業参観、諸帳簿点検のみとなったが、教科支援訪問で指導主事が小中学校の授業を参観し、「学び・育ちの実感」を伴う授業改善について指導助言を行い、推進を図った。	マネジメントサイクルに沿った実践となり、教師の授業力の向上となって、子どもたちの学力向上につながった。	今年度から、学校経営説明、指導助言、講評等を再開し、本村の教育施策の周知と、学校経営の充実に向けた指導助言を行う。	B	①現状の内容で継続
奨学資金貸与事業 (伊佐) No.6	経済的な理由により、学資の援助を必要とする者に対して学資の一部を貸与し有用な人材を養成する。	給付型では、応募基準の整備を行い、応募者の間口を広げるか検討が必要である。 貸与型では、貸与額を増額し、無利子の村奨学金を活用いただき、家計への負担が少ない形で、村民の有用な人材育成につなげたい。 また連帯保証人への通知は完了しておらず、引き続き滞納整理を進めたい。	奨学金の募集期間の延長や、二次募集を実施するなど奨学金を活用しやすくなるよう整備した。	○給付型申し込み 15 件のうち 11 件の給付を決定した。 県内 6 件 600 千円 県外 5 件 1,000 千円 ○高校生給付型奨学金の申込 12 件があり、9 件 900 千円の給付を決定した。 ○貸与型奨学金申込 25 件のうち 24 件の貸与を決定した。(1 件取下げ) 県内 12 件 3,600 千円 県外 12 件 5,040 千円 前年度比 480 千円増。 償還額は 10,545 千円で前年度比 1,602 千円減 寄付金 2,400 千円	給付型では、高校生給付型奨学資金の給付額を減らし、応募者の間口を広げる。今年度の応募状況により今後の応募基準の検討が必要である。 貸与型では、貸付額を増額、特別貸与を増設し、無利子の村奨学金を活用いただき、家計への負担が少ない形で、村民の有用な人材育成につなげたい。 また連帯保証人への通知は完了しておらず、引き続き滞納整理を進めていく。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和4年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和4年度の取組み)	事業の成果 (令和4年度の成果)	今後の課題 (令和5年度の課題)	評価	総合判断
キャリア教育事業 ・職場体験学習 ・職場見学 (比嘉) No.7	児童生徒を対象に正しい職業観・勤労観を身につけさせることをねらいとする。	コロナ禍以降の社会体験学習の実施について、恩納村地域型就業意識向上支援業務を参考にキャリア教育を推進する。	事業所との調整を図りながら事業を実施。コロナの感染状況に応じた対応策を講じ、積極的にキャリア教育を推進していく。	中学校35事業所、小学校9事業にて職場体験学習を実施し、児童・生徒のキャリア形成につなげることができた。	感染症の対応や個人情報保護の関係で事業所の受け入れ条件が厳しくなっている。事業を主催する側も時代の変化に配慮して事業を実施する必要がある。	A	①現状の内容で継続
幼稚園教諭研修会 (本山) No.8	村内4幼稚園教諭の資質の向上を図る。 幼稚園運営に関する意見交換を行い、改善に関する方策を策定する。	幼小連携を推進し、小学校のスタートアップカリキュラムの見直し等に関わる。	コロナ禍におけるオンライン研修を活用して、研修会を計画的に実施し、新教育要領の完全実施の確認を行い、各園の連携に努めた。 幼小連携に関する資料提供を行う。	毎月の研修会の内容を充実させることで各園の保育について連携を図る事ができた。 関係機関の主催する研修会へ参加することで教員の資質の向上が図られた。 幼小連携の重要性について周知を図ることができた。	各園長、教諭等との連携を図り、質の高い幼児教育の推進、幼小連携の充実に努める。 県義務教育課、中頭教育事務所等の研修会へ確実に参加する。	B	①現状の内容で継続
幼稚園管理備品・保育振興備品整備事業 (玉城) No.9	幼稚園教育に関する備品及び保育環境の充実を図る。	老朽化した備品(机・椅子など)の確認を行い整備、廃棄を行う必要がある。	各幼稚園にてヒアリングを行い、優先備品を確認し、整備した。 備品の廃棄に向けて各園の備品台帳の整理を行った。	各幼稚園計画どおりの備品整備を図ることができた。 予算 431,000 円 執行額 430,520 円 【参考】 ○安富祖幼稚園 ・デジタルカメラ ○恩納幼稚園 ・椅子、テーブル	休園している園及び各園の備品の廃棄、統合を踏まえた備品の整備を行う必要がある。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和4年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和4年度の取組み)	事業の成果 (令和4年度の成果)	今後の課題 (令和5年度の課題)	評価	総合判断
				・ウイングワンタッチ テント ○仲泊幼稚園 ・6人用机 ○山田幼稚園 ・6人用机			
幼稚園教育の推進 (本山) No.10	幼稚園の自然環境・人的環境を生かした特色ある幼児教育活動を実施する。	村立幼稚園の園内研究の統一テーマの取組を記録に残し、継続して研究、実践を積み重ねる事で、各園の教育の質を均等化する。	統一テーマ「幼稚園教育において育みたい資質・能力を踏まえた教育課程に基づく指導計画の作成や指導実践 ～身近な自然との関わりを通して～」を設定し、村立幼稚園の幼児教育の均一化等の推進を図ることができた。	園児は、身近な自然と関わる体験活動を通して、身近な自然と親しみ、園児同士の関わりの中から、友達を思いやる言葉かけができた等、自然や自他への愛情を育むことができた。	各園長、教諭等との連携を図り、質の高い幼児教育の推進、幼小連携の充実に努める。 福祉課との情報共有の場を定期的に持ち、保・幼・小連携協議会の開催に向けた準備を整える。	A	①現状の内容で継続
教育振興備品整備事業 (新垣、仲間、伊佐) No.11	学校の要望に基づく教材備品を拡充することにより、効果的な学習が行えるようにする。	整備されたICT環境を効果的に活用するため、児童・生徒のほか教員のICT機器の操作サポートを充分に行う必要がある。	ICT支援員を1名増員し、児童・生徒、教員に対して整備した情報機器を活用できるようにサポートした。	アンケートを実施したところ、児童・生徒において、タブレット端末等を使用して、情報を活用できるようになったと答えた割合が86%、教員においては授業でデジタル教科書やICT関連教材を活用し、情報活用能力の育成ができたと答えた割合が88%となった。	引き続き、教育振興における備品の整備及び活用に向けてのサポートを行う。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和4年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和4年度の取組み)	事業の成果 (令和4年度の成果)	今後の課題 (令和5年度の課題)	評価	総合判断
就学支援事業 (仲間) No.12	一定の条件を満たした家庭の児童生徒に対し、学資を援助して経済的に支援を要する児童生徒の教育の充実を図る。	前年度に引き続き、コロナウイルス感染症の影響による世帯の収入減等の状況等も踏まえ認定事務を行う。 GIGA スクール構想に基づいて整備されたタブレット端末を活用した家庭学習などを行う機会が増えたため、今後はオンライン通信費の費目についても検討する必要がある。	就学援助システムを活用することで、認定事務をスムーズに行った。 昨年度認定されていたが申請書が提出されていない世帯への声掛けや、申請済み世帯の一覧の作成などを行い、学校と連携して制度の周知を図った。	支給額の新規事業への対応により、新年度予算に反映させることができた。 ○令和4年度認定者 ・準要保護 255 名 (前年度 263 名) ・要保護 0 名 (前年度 3 名) 認定児童・生徒は全体の 26.2% (令和5年3月末時点)となっている。 前年度 26.5% (令和4年3月末)	コロナウイルス感染症に引き続き、世界的な情勢悪化による世帯の収入減の状況等も踏まえ認定事務を行う。 安心・安全に GIGA 端末を使用してもらうために、オンライン通信費の項目を新設し、必要な世帯へ援助を行う。	A	①現状の内容で継続
スクールカウンセラー設置事業 (比嘉) No.13	幼児児童生徒の不登校及びいじめその他の問題行動の未然防止、早期発見及び早期解決を図るため、高度な専門的知識及び経験を有するスクールカウンセラーを設置する。	スクールカウンセラーの配置が効果的であり、よりきめ細かな対応も求められていることから、福祉課との連携やカウンセラーの増員や対応時間を増やすなど検討が必要である。	村立小中学校の生徒指導主任・教育相談担当者研修会(3回/年)やSSW情報交換会(12回/年)においてスクールカウンセラーとの効果的な活用について確認し、連携等組織的に対応していく。また、有識者を招聘しSSWスパー・ヴィジョン(3回/年)を開催することで、SSW個々の資質・能力の向上に努める。	教職員とSC・SSWの連携が図られるケースが増えており、不登校及びいじめその他の問題行動の早期発見・対応に繋がっている。コロナ禍で全国的に不登校数が増大する中、中学校においては、減少傾向にあった。 R3年度→R4年度 小：6名→11名 中：8名→5名	幼児児童生徒やその保護者が抱えた問題が多様化しており、よりスクールの必要性が高くなっている。また相談件数の増加も鑑み、今後ともSSW・福祉課との連携充実を図りつつ、増員及び対応時間の増加を検討する必要がある。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和4年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和4年度の取組み)	事業の成果 (令和4年度の成果)	今後の課題 (令和5年度の課題)	評価	総合判断
教育の情報化コーディネーター配置事業 (新垣) No.14	恩納村立幼稚園・小中学校における学校ICT環境整備に対する提案とその効果的な活用、情報化による授業改善や児童生徒への直接指導、テレビ電話システムを活用、リスクマネジメント、情報機器を活用した情報公開・広報等について専門的知見から教育の情報化を推進するために派遣する。	ICT支援員1名増員することができたが、ICT支援員の技術向上や事務局、ICT支援員、コーディネーターとの情報共有等に課題があり、円滑に業務遂行ができるよう連携が必要である。	令和4年度は、情報コーディネーター1名、ICT支援員2名配置することができたが、業務内容の明文化がなされていなかったため、情報共有ができず、業務が円滑に遂行できなかった。業務内容を明確にし、情報共有が図られるよう整備を行い、今後の教育の情報化の展望も加味し、外部委託を検討した。	業務内容を明文化し、各学校へ格差なく、安定したICT支援が行えるよう専門業者による外部委託を導入した。	委託業者に変更が生じて、学校のICT支援が安定して行われるようしっかりとした業務引継が必要である。	A	②事業を拡大して継続
特別支援員配置事業 (新垣) No.15	障がいのある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援する。	予定人数の配置ができていないため、早期の人材確保及びサポート体制の充実を図る必要がある。	ハローワークや学校へ依頼し、求人募集を行い人材確保に務めた。 幼稚園4人、小学校9人（欠員1名）、中学校3人配置することができた。	保護者アンケートから変化や成長がみられたとの回答が80%以上であったことから、支援員の資質向上が図られ、適切な支援が行われているものと思われる。	慢性的な人手不足による支援員の不足が生じないように、人材確保する必要がある。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和4年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和4年度の取組み)	事業の成果 (令和4年度の成果)	今後の課題 (令和5年度の課題)	評価	総合判断
英語指導助手派遣 事業（ALT） (本山・新垣) No.16	ネイティブを配置することにより、児童生徒の外国語「英語」力の向上を図る。	教員希望者数の減少等により、中学校英語教諭の免許状を持ったALTを雇用することが困難になってきている。継続して中学校英語教員免許状を持ったALTを雇用し、質の高い授業改善を行い続ける。	中学校にネイティブスピーカー1名、小学校に英語技能検定1級所持者1名と中学校英語教諭免許状所持者1名の合計3人配置することができた。	児童生徒へ英語の楽しさを体験させることができ、また、英語での表現力の向上を図ることができた。	教員不足により、中学校英語教諭の免許状を持ったALTを雇用することが困難になってきているため、早期に人材確保に努める必要がある。	A	①現状の内容で継続
対外競技派遣及び 中学校部活動支援 事業 (伊佐) No.17	児童生徒の文化的、体育的活動「部活動」の振興を図る。	コロナウイルスの緩和で、大会も実施されるようになり、部活動の活躍が見られるようになった。部活動の振興が図れるよう、引き続き適宜予算確保を行う必要がある。	コロナウイルスの影響が少しは見られたが、前年に比べ大会も多く開催され、当初予算よりも派遣費が増となった。 補正で対応するなど、適宜な予算確保を行った。	県外派遣費 ○第44回九州中学校陸上競技大会（選手5名、引率1名） ○第50回九州中学校水泳競技大会（選手1名） ○第74回全日本中学校英語弁論大会（高円宮杯生徒1名） 執行額：593,020円 大会参加費及び登録料等 執行額：618,263円 部活動に必要な消耗品等の予算の確保、執行に努め、部活動消耗品等の充実が図られた。 執行額：528,811円	コロナウイルスの緩和で、大会も実施されるようになり、部活動の活躍が見られるようになった。部活動の振興が図れるよう、引き続き適宜予算確保を行う必要がある。今年度より県外派遣について一括交付金を活用する予定。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和4年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和4年度の取組み)	事業の成果 (令和4年度の成果)	今後の課題 (令和5年度の課題)	評価	総合判断
諸検査事業 ・知能検査 ・進路適正検査 ・i-check 調査 ・標準学力調査 ・総合学力調査 ・中3学力調査 (比嘉) No.18	児童生徒の学力の定着状況や学習状況等を把握し、指導法の工夫改善に役立てる。	i-check 調査の実施により学力と学習状況の相関関係を確認し、適切な教育支援を行う。	管理職研修会や校内研修等での講習会を実施。調査の性格をはじめ、得られた調査結果の分析に関する理解を深める。効果的に教育支援に活用していく。	各種学力の結果を児童生徒の学習を支える力から捉え、授業改善に活かす視点が備わりつつある。	R5年度は、小学校でも総合学力調査を採用し、AIドリルとの連携による授業改善等への活用を図っていく。小中での協働実践を行っている。	B	①現状の内容で継続
指定研究事業 (本山) No.19	特色ある学校づくり及び学力の向上を目指し、教科・領域指定及び皆泳指定研究をする。	読書活動を含む家庭学習の充実を図る。	GIGA 端末等を活用して、思考力、判断力、表現力を育成するなど、学び・育ちの実感のある授業改善を図る。 皆泳指導の講師を小学校に派遣する。 授業と連動した家庭学習による「自学自習力」の育成を図るとともに、読書活動の充実に努める。	GIGA 端末等を活用し、子ども同士の活動を通して、授業において何を学び、何ができるようになったかを意識した授業改善を行った。 各学校において、「自学自習力」を意識した家庭学習の推進が図られるとともに、読書活動の充実が図られた。 皆泳率 令和3年度→令和4年度 3年：22%→4年：31% 4年：39%→5年：54% 5年：67%→6年：73%	村学力向上推進要項に基づいた「授業改善」「学校改善」を図り、児童生徒の「自学自習力」等の育成に務める。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和4年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和4年度の取組み)	事業の成果 (令和4年度の成果)	今後の課題 (令和5年度の課題)	評価	総合判断
小中学校施設整備 事業 (当山) No.20	学校施設の長寿命化を図り長期にわたり良好な教育環境を確保する。	設備の老朽化した山田小学校のプール改築工事を発注する。	山田小学校のプール改築工事を発注した、工程会議を開き無事故で工事が進捗するように監督した。	山田小学校プール改築工事を発注した。また無事故で工事を進捗させた。	山田小学校のプール改築工事を完了させる。施設の長寿命化の為、外壁の劣化した安富祖小の外壁塗装改修を行う。	B	① 現状の内容で継続
学校施設維持管理 事業 (当山) No.21	学校施設及び消防用設備を適切に維持管理し修繕する事で、安全で快適な教育環境を確保する。	各学校の老朽化した空調設備及び劣化した渡り廊下等を修繕する。	予算及び優先順位等を考慮し、修繕を行い、教育環境の維持管理に務めた。 【令和4年度】 施設修繕費：21,160 千円 (前年度：16,626 千円)	各学校の保守点検、消防用設備・空調設備等88件(前年度：85件)の修繕を実施した。 各小学校の空調設備の修繕、山田小学校の渡り廊下修繕を行った。	各学校の老朽化した空調設備及び消防用設備の修繕を行う。	B	①現状の内容で継続
うんな中学校SDGsプロジェクト (新垣・伊佐) No.22	少子高齢化や観光消費額の減少など地域の課題を解決するため中学生を中心にSDGsの取組と連携した活動を実施する。 中学生が地域の課題解決に関わって成功体験や活性化に貢献する喜びなど質の高い教育を提供する。 この活動はSDGsと同じ2030年まで継続する。	早い段階で学校と調整し、課題、テーマ設定が必要である。 プロジェクトが2030年まで継続するため、関係機関との連携がスムーズに行くよう、スケジュールなどのひな型を作成する必要がある。	事業スケジュールは年度始まってから組み立てたが、企業や関係各課及び関係機関の協力のもと、事業を展開することができた。軽石の利活用、福祉の視点からの防災アプリ開発、大手お菓子メーカーとのお菓子の開発に取り組むことができた。	3年A組は「防災アプリの開発」、B組は「軽石の学びと利活用」C組は村産アーサを使用した「堅あげポテトでーじまーさんアーサそば味」を通して、恩納村の課題を解決することができた。	協力企業との連携もあり、早い段階で学校と調整し、課題、テーマ設定が必要である。 プロジェクトが2030年まで継続するため、関係機関との連携がスムーズに行くよう、コーディネーター業務の外部委託を検討する必要がある。	A	②事業を拡大して継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和４年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和４年度の取組み)	事業の成果 (令和４年度の成果)	今後の課題 (令和５年度の課題)	評価	総合判断
新型コロナウイルス感染症対応地 方創生臨時交付金 事業 (比嘉) No.23	国の新型コロナウイルス感染症緊急経済対 策として新型コロナウイルス感染症対応地方 創生臨時交付金を活用 し、感染拡大の防止及び 感染拡大の影響を受け ている地域経済や住民 生活の支援を行う。	継続して新型コロナウ イルス感染症対策事 業を実施し子育て世帯 の経済支援を行う。	村内在住の小学生のい る世帯に対し、学校給食 費の免除を行った。	学校給食費免除を実 施し「子育て世帯」への 学校給食費の負担を軽 減することが出来た。 交付額 22,424 千円 ※賄材料費へ充当	令和５年度より 小学生給食費無償 化により事業の実 施なし。	B	② 事業の廃止

(2) 社会教育関係所管事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和4年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和4年度の取組み)	事業の成果 (令和4年度の成果)	今後の課題 (令和5年度の課題)	評価	総合判断
青少年団体等活動 助成事業 (4団体) (漢那) No.1	青少年団体等が実施 する活動を支援し、体 験活動等をとおして、 健全な青少年の育成を 図る。	令和3年度に引き続 き、新型コロナウイルス感染症 による規制が緩和され、 青少年団体の活動も期 待されることから、感染 防止対策の助言を行い、 活動の推進を図ること で、当初予定の4団体の 助成に努める必要があ る。	新型コロナウイルス感染症の影響 を受け、活動を自粛する 団体が増える中ではある が、感染防止対策などの助 言指導を行い助成募集を 行った。	各団体へ感染防止対 策等の助言を行いなが ら募集を行ったが、新 型コロナウイルス感染症の影響 により活動実績がな かったことから、令和 3年度同様に助成なし となった。 【令和元年度実績】 読み聞かせサークル：2団体 スポーツ団体：1団体 放課後子どもキッズクラブ：1団体 【本年度実績】 読み聞かせサークル：0団体 スポーツ団体：0団体 放課後子どもキッズクラブ：0団体	令和5年度から 新型コロナウイルス感染症 による規制が緩和 されることで、青少 年団体の活動も期 待されることから、 活動の推進を図る ことで、当初予定の 4団体の助成に努 める必要がある。	C	①現状の内容 で継続
国際交流派遣事業 (漢那) No.2	創造性、積極性、国際 性に富み、グローバル な視点で物事を考察で きる人材の育成を目指 す。 (アメリカホームステイ) 中高校生対象：5名、但 し、応募が少ない場合 には大学生の応募も対 象可)	両事業とも、次年度以 降も新型コロナウイルス感染症 の収束が見込まれない ことを踏まえ、募集時に おける感染状況を注視 し、研修生を安全に派遣 することができるか検 討したうえで、事業実施 判断を行う必要がある。	アメリカホームステイプログラム、ア ジア交流事業の両事業と もに、沖縄県内や派遣先の 新型コロナウイルス感染症の状況 を注視し、前年度の課題解 決を含め、事業実施の判断 を行った。	アメリカホームステイプログラム については、県内や派 遣先であるアメリカ合衆国 における新型コロナウイルス 感染症の拡大に伴い、 研修生を安全に派遣す ることができないと判 断し、事業中止の決定 を行った。	事業の効果を高 めるため、各学校と 連携し、周知を徹底 することで、応募者 増に努める。 アメリカホームステイプロ グラムについてはうん な中学校枠として 2枠を設けたが、令 和5年度募集では 応募がなかったこ とから、「中学校枠」 の設定を検討する。	C	①現状の内容 で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和4年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和4年度の取組み)	事業の成果 (令和4年度の成果)	今後の課題 (令和5年度の課題)	評価	総合判断
	(アジア圏内[台湾]交流事業:総勢15名①村立小中学校児童生徒10名②引率者5名)			アジア交流事業については、派遣先の台湾において自国籍者以外の者の入国規制、県内における新型コロナウイルス感染症拡大の状況を踏まえ、研修生を安全に派遣することができないと判断し事業中止の決定を行った。			
自然生活体験学習「サバイバルキャンプ」事業 (漢那) No.3	自然生活体験で自然にふれあうことにより、自然に親しみ、仲間と協力することをおして社会性を身につけ、また、生活に必要な基礎的技能を身につけ、自立を促し健康で心豊かな青少年の育成を図る。	次年度以降も新型コロナウイルス感染症の影響が懸念されることから、事業実施に向けて感染防止対策を事業関係者である村子連、村魚協等を含めた協議を行い、実施の判断を行う必要がある。	新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、事業実施に向けて感染拡大防止対策として野外炊飯活動や宿泊先の変更協議等を村子連等を含めて行った。 また村スポーツ推進委員及び村職員に当該事業へ参加を依頼し、参加者の安全確保を図ったことにより、大きな事故もなく事業を実施することができた。	新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、当該事業及び関連事業である勤労体験学習「田植え」「稲刈り」は中止となったが、サバイバルキャンプは感染対策を施したうえで実施することができた。 【サバイバルキャンプ応募者】 (前年度) ジュニアリーダー:25名(0名) 小学6年生:18名(0名) 【田植え参加者】 ※コロナ禍のため中止 ジュニアリーダー:0名(0名) 小学6年生:0名(0名)	本事業をスムーズに実施するためには、ジュニアリーダーの育成やスタッフの確保は不可欠であることから、今後も村子連と連携を図り、ジュニアリーダーの育成に努める。 また村当局と連携して、引き続き運営スタッフの確保に努める。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和4年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和4年度の取組み)	事業の成果 (令和4年度の成果)	今後の課題 (令和5年度の課題)	評価	総合判断
成人式事業 (漢那) No.4	新成人の新たな門出を激励すると共に、社会を構成する成人としての自覚と責任を認識し、住みよい村づくりへの意識の向上を図る。	令和5年以降も式典対象者の年齢が20歳と決定したことから、18歳成人年齢との相違点があるので式典名称を検討する必要がある。 また、令和5年式典においても新型コロナウイルス感染症対策を講じて事業実施を行う必要がある。	引き続き新型コロナウイルス感染症対策として、規模縮小、来賓者及び保護者の入場制限、手指消毒や検温等の感染対策の確認を行った。	令和5年成人式については、新型コロナウイルス感染症対策を講じたことにより、成人式におけるクラスターの発生や感染者の発生を抑えることができ、また大きな問題行動もなく安全に事業を実施することができた。 【実績】 新成人該当者：119名 (前年度102名) 成人式参加者：94名 (前年度74名) 参加率：78.9% (前年度72.5%)	式典終了後の祝賀会の実施について検討する。	B	①現状の内容で継続
社会教育教室 (うんな大学) 予定：全8回 実績：全8回 (漢那) No.5	本村の教育資源・人材を最大限に活用して学習することで、村民の生涯学習意欲の意識向上の機会とする。	次年度以降も新型コロナウイルス感染症の収束が見込まれないことから、感染状況を把握し、講座会場における新型コロナウイルス感染症が拡大に基づき会場設定を行い、オンライン講座を基準として講座実施に向けて講師との交渉を進める必要がある。	新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、感染防止対策として、新型コロナウイルス感染症が拡大に伴った会場の選定やオンラインによる講座開設の検討を行った。	マージャン講座は好評で講座終了後も継続したい旨の参加者からの声があった。 【実績】 ・脳トレ健康マージャン教室 全4回・延べ41名 ・恩納村の戦争を知るフィールドワーク 全3回・延べ2名 ・すべらない話 全1回・延べ5名 (前年度)1回：4名	前年度にオンライン講座を検討するも受諾する講師がなかったことから対面での講座開催を検討したため、年度前半は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い企画を進めることができなかったが、今年度から新型コロナウイルス感染症による規制が緩和さ	C	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和4年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和4年度の取組み)	事業の成果 (令和4年度の成果)	今後の課題 (令和5年度の課題)	評価	総合判断
					れることから、年度当初から積極的に講座開催に向け講師との調整を行っていく。		
いきいき女性教室 予定：全8回 実施：全8回 (漢那) No.6	学習機会を通して資質や技術の向上を図り、女性の地域づくりへの参加を推進する。併せて、受講を機に地域でのサークル活動に繋げ、生涯学習啓発の場とする教室を開催する。	次年度以降も新型コロナウイルス感染症の収束が見込まれないことから、感染状況を把握し、講座会場における新型コロナウイルス感染症がオンラインに基づき会場設定を行い、オンライン講座を基準として講座実施に向けて講師との交渉を進める必要がある。	新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、感染防止対策として、新型コロナウイルス感染症がオンラインに沿った会場の選定やオンラインによる講座開設の検討を行った。	【実績】 ・終活教室 全3回・延べ12名 ・ベテランミバックづくり 全5回・延べ35名 (前年度) 3回：18名(延べ)	前年度にオンライン講座を検討するも受諾する講師がなかったことから対面での講座開催を検討したため、年度前半は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い企画を進めることができなかったが、今年度から新型コロナウイルス感染症による規制が緩和されることから、年度当初から積極的に講座開催に向け講師との調整を行っていく。	C	①現状の内容で継続
地域リーダー研修 予定：全1回 実績：全0回 (漢那) No.7	組織づくり支援・地域交流活性化支援・リーダー人材育成支援・就業意識向上支援	次年度以降も新型コロナウイルス感染症の収束が見込まれないことから、感染状況を把握し、講座会場における新型コロナウイルス感染症がオンラインに基づき会場設定を行い、オン	新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、感染防止対策として、新型コロナウイルス感染症がオンラインに沿った会場の選定やオンラインによる講座開設の検討を行った。	新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、オンライン講座を含め講師との交渉を行ったが、受諾いただける講師がいなかったこと、各種団体の活動自粛を踏まえ事業を実	今年度から新型コロナウイルス感染症による規制が緩和されることから、年度当初から積極的に講座開催に向け講師との調整を行って	D	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和4年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和4年度の取組み)	事業の成果 (令和4年度の成果)	今後の課題 (令和5年度の課題)	評価	総合判断
		い講座を基準として講座実施に向けて講師との交渉を進める必要がある。		施することができなかった。	いく。		
楽しく子育て教室 予定：全2回 実績：全2回 (漢那) No.8	子育てに必要な生活習慣の大切さを学び、家庭教育の基礎づくり・仲間づくり・親子のふれ合いや絆を深める場とし、子育てに悩んでいる受講生間の交流の場とする。	次年度以降も新型コロナウイルス感染症の収束が見込まれないことから、感染状況を把握し、講座会場における新型コロナウイルス感染症がオンラインに基づき会場設定を行い、オンライン講座を基準として講座実施に向けて講師との交渉を進める必要がある。	新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、感染防止対策として、新型コロナウイルス感染症がオンラインに沿った会場の選定やオンラインによる講座開設の検討を行った。	新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、オンライン講座を含め講師との交渉を行ったが、受諾いただけの講師がいなかったことから、2回の開催となった。 【実績】 (4年度)2回：延べ47名 (うち男性参加者0名) ・幼児から始めるお金の勉強 ・親子ふれあいリミック (前年度)2回：7名(延べ) (うち男性参加者0名)	今年度から新型コロナウイルス感染症による規制が緩和されることから、年度当初から積極的に講座開催に向け講師との調整を行っていく。	C	①現状の内容で継続
公民館講座 予定:全6講座開設 実績:全3講座開設 (漢那) No.9	多様化、高度化する学習ニーズに対応するため、各字公民館の協力を得て、地域住民に対して学習機会を提供するとともに、地域における指導者の養成を図る。	新型コロナウイルス感染症対策方法や公民館における新型コロナウイルス感染症がオンラインに沿った受講人数を設定することで、安全に講座開設できることを説明し、積極的に講座開設につながるよう努める必要がある。	前年度に引き続き募集要項に開設実績の少ない団体を優先して開設許可する旨と、新型コロナウイルス感染症感染防止対策を講じて実施するよう定め、講座開設募集を行った。	新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、講座開設申請及び開設が3団体にとどまった。	今年度から新型コロナウイルス感染症による規制が緩和されることから実施希望団体の増が予想されるため、これまでの開設実績を参考に、開設実績の少ない団体から優先して講座の開設を許可していく。	C	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和4年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和4年度の取組み)	事業の成果 (令和4年度の成果)	今後の課題 (令和5年度の課題)	評価	総合判断
				【実績】 ・真栄田公民館講座 紅型トートバックづくり 全10回：延べ76名 ・恩納公民館講座 全10回：延べ70名 花・ちりめん押絵・テリウム・ ハーバリウムづくり ・南恩納公民館講座 全10回：延べ81名 ミツウ・酵母・味噌づくり (前年度)1講座：63名(延べ)			
人材育成激励金 支給事業 (漢那・玉城) No.10	教育、芸術、文化スポーツの分野において優秀な成績を収めた個人に対し、激励金を支給することにより、人材育成と教育、芸術、文化、スポーツの振興を図る。	引き続き事業周知の徹底と対象者を把握するとともに、請求から支給まで速やかに事務手続きを行うこと。	事業周知のためホームページ掲載を行い、申請があった際は速やかに事務手続きを行い、激励金を支給し対象者の負担軽減に努め、申請数と予算現額を調整しながら予算確保にも努めた。	○スポーツ面(前年度) スポーツ競技は48件の支給があった。(前年度34件) ・ソフトボール 学生：6件(3)、一般：9件(1) ・バドミントン 学生：15件(6)、一般：1件(3) ・野球 学生：5件(4)、一般：0件(1) ・空手 学生：6件(2)、一般：0件(0) ・トランポリン 学生：1件(0)、一般：0件(0) ・体操 学生：1件(1)、一般：0件(0)	引き続き事業周知の徹底と対象者を把握するとともに、請求から支給まで速やかに事務手続きを行うこと。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和4年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和4年度の取組み)	事業の成果 (令和4年度の成果)	今後の課題 (令和5年度の課題)	評価	総合判断
				・バレーボール 学生:2件(0)、一般:0件(0) ・サッカー 学生:2件(0)、一般:0件(0) ○文化面(前年度) 文化面は1件の支給があった。(前年度:6件) ・珠算(1件)			
各種団体への活動支援 (漢那) No.11	社会教育分野で活動する各種団体に対し補助金を交付し、その活動を支援することにより社会教育活動の振興を図る。	次年度以降も新型コロナウイルス感染症の収束が見込めないことから、本年度同様に事業縮小が予測されるため、補助金交付決定額を二期に分けて交付し、必要額のための補助金交付に努める必要がある。	新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、各種団体とも事業が縮小・自粛・中止となる中、事業実施に向け感染防止対策等の指導・助言を行った。	感染防止対策等の指導・助言を行ったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、各種団体とも殆どの事業が中止となっていることから、村財政担当と連携し、各種団体の事業実績に基づき精査して補助額を確定し、必要に応じて不用額の返還を図った。 ○青少年健全育成協議会 907,000円(決定額) 634,900(確定額) ○子ども会育成連絡協議会 1,910,000円(決定額) 1,910,000円(確定額)	令和5年度から新型コロナウイルス感染症による規制が緩和されることで、青少年団体等の活動も期待されることから、引き続き各種団体の活動を継続して支援する。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和４年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和４年度の取組み)	事業の成果 (令和４年度の成果)	今後の課題 (令和５年度の課題)	評価	総合判断
				○ＰＴＡ連合会 1,585,000 円（決定額） 1,110,000 円（確定額） ○婦人会 1,000,000 円（決定額） 700,000 円（確定額） ○青年団協議会 443,000 円（決定額） 313,000 円（確定額）			
文化情報センター 業務 (呉屋) No.12	文化情報センターの開館に必要な事務を行うと共に、住民に対し、図書や資料を通じて情報提供サービスに取り組み、読書活動を推進し村内外の様々な情報を提供する。	①友好図書館である石狩市民図書館との情報交換及び交流を続け両市村の情報拠点の場になるように努める。 ②村民の要求や時事的話題に留意し蔵書構築に努める。	①友好図書館（石狩市民図書館）との交流として、資料を相互寄贈し、お互いの地域についての関心を深めた。オンラインでの情報発信を行った。 ②継続的に資料の購入・収集、登録に取り組んだ。	①石狩市関連本 262 冊(前年度 237 冊) 広報の相互寄贈と登録を行いお互いの情報発信やオンラインイベントの周知協力をした。 ②年間増加冊数 6912 冊 (前年度 8,774 冊)	①友好図書館である石狩市民図書館との情報交換及び交流を続ける。両市村の情報発信に努め、対面交流の再開についても協議する ②村民の要求や時事的話題に留意し蔵書構築に努める。寄贈図書の整理及び洋書登録を進め、書庫を有効的に活用し、開架書架の魅力的なレイアウトに努める。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和4年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和4年度の取組み)	事業の成果 (令和4年度の成果)	今後の課題 (令和5年度の課題)	評価	総合判断
		③来館型・非来館型ハイブリットサービスの確立 ④時事的話題にも留意し住民の生活に役立つ情報を提供し、新たな情報への関心を高める。	③継続的な本の特集コーナー等の設置や関係機関と連携したイベント等の実施に取り組んだ。ホームページやSNSでの情報発信に取り組んだ ④各種イベントの実施や図書の特集コーナーの設置に取り組んだ。	③ 入館者数 64,693 人 (前年度：36,059 人) 貸出人数 29,551 人 (前年度：19,563 人) 貸出冊数 142,175 冊 (前年度：96,436 冊) 登録人数 1,023 人 うち村内 242 人 (前年度：613 人) うち村内 171 人 予約件数：1,619 冊 (前年度：3,541 冊) 蔵書累計冊数：107,836 冊 前年度：(100,924 冊) 開館日数：276 日 (前年度 184 日) ※うち 46 日 67 時間短縮開館 臨時休館及び短縮開館 条件付き開館含む) ④本の特集 「沖縄復帰 50 周年」 「やんばるの旅」 他 116 テーマ 企画イベント (参加延べ人数 531 人)	③村内利用者の拡充 ④時事的話題にも留意し、住民の生活に役立つ情報を提供し、新たな情報への関心を高め、住民自身の調べる力や情報リテラシーを高める行政情報提供にも力を入れる。		

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和4年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和4年度の取組み)	事業の成果 (令和4年度の成果)	今後の課題 (令和5年度の課題)	評価	総合判断
		⑤村の動向に留意しサンゴの村宣言に伴う村の取り組みの周知に努める。 ⑥レファレンスの周知に取り組み事業を継続する。	⑤サンゴ関連事業とし、さんごの絵本やカルタ販売をおこなった。 「おさかながいなくなっちゃった」の出版をした ⑥レファレンスの周知とレファレンス協同データベースへの参加	「図書館総合展 2022 サテライト会場」「宮沢和史講演会」他合計 24 回実施（天候不良のため中止 1 事業・延期 1 事業・定員不足のため中止 1 事業） シニアポートレート写真展 恩納村地域づくり支援助成事業 主催:bon とショウガツ団 ⑤絵本 売上冊数：499 冊 売上収入：479,340 円 かるた 売上点数：201 点 売上収入：132,880 円 ⑥レファレンス協同データベースの事例登録が多かったことで国立国会図書館より礼状を 5 年連続で授与された。県内市町村では当館のみ。 事例登録 73 件 郷土関連パースファインダーの作成 3 テーマ	⑤村の動向に留意しサンゴの村宣言やSDGs 関連の取り組みの周知に努める。サンゴの絵本の活用を促進する ⑥レファレンスの周知及び関連機関との連携		

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和4年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和4年度の取組み)	事業の成果 (令和4年度の成果)	今後の課題 (令和5年度の課題)	評価	総合判断
		⑦関連機関と連携し、 幼児・児童の読書活動 の推進を図る。	⑦読書通帳機などを活用 し読書推進を行なった。 沖縄県内で唯一調べる 学習コンクールを実施し ている。	「沖縄の復帰」・「三線 について調べる」・「世 界のウチナヘンチュ」 「レファレンス協同デ ータベース」よりレフ ァ協 Pick up!として紹 介 ⑦読書通帳：127 名発 行 (累計：1030 名) 販売 43 冊 7,310 円 図書館を使った調べ る学習コンクールで第 4 回地域コンクールを 開催応募総数 28 作品 毎週土曜日の定例お はなし会の他、朗読サ ークル ぼ～のさん によるイベントおはなし 会年 4 回 「えいごでおはなし 会」毎月第 3 土曜日開 催	⑦企画展示やイベ ントを通して、コン クールの周知に努 める。		

(3) 社会体育関係所管事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和4年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和4年度の取組み)	事業の成果 (令和4年度の成果)	今後の課題 (令和5年度の課題)	評価	総合判断
各種社会体育事業の 充実 (玉城) (ウォーキングフェ スタ) No.1-1	村民に対し、スポー ツをする機会を提供 し、健康増進と相互の 親睦を図る。	新型コロナウイルスの影響 が懸念されるので健康 保険課と協議し感染予 防対策等を行いなが ら、安心して参加して もらえるよう事業の実 施を検討する。	参加者の安全管理の為ウ ォーキングコースの確認や、当日 の係員配置、スポーツ推進 委員の役割分担を行った。	今回は産業まつりと の同時開催で実施し、 健康増進の意識高揚に つながった。 ウォーキングフェスタ 参加者：77名	令和4年度は新 たなウォーキングコースで 実施したというこ ともあり、参加者か らの要望等も多々 あった。関係課と連 携し改善していけ るようにしたい。	B	①現状の内容 で継続
(スポーツ教室) No.1-2	村民に対し、スポー ツをする機会を提供 し、ニュースポーツ体 験や健康運動指導、交 流をとおして健康増進 を図る。	新型コロナウイルスの影響 が懸念されるので、ス ポーツ推進委員と協議 しオンライン開催など を視野に入れた事業実 施を検討する。	オンライン開催も検討 したが、対面での実施の希 望が多かった為、例年と時 期をずらし参加人数の制 限や感染予防対策を行い スポーツ教室の実施を行 った。	参加者の健康増進へ の意識高揚につながっ た。 北部地区 (瀬良垣公民館にて実施) 延べ28名 計3回 南部地区 (真栄田公民館にて実施) 延べ22名 計3回	事業を継続しア ンケート調査の結 果を踏まえ、開催時 期やメニューを講 師やスポーツ推進 委員と検討し実施 する。		
(壮年バレーボール) No.1-3	壮年層の村民に対 し、スポーツをする機 会を提供し、交流をと おして健康増進を図 る。	新型コロナウイルスの影響 が懸念されるが、村体 育協会のガイドライン を参考にしながら事業 実施を検討する。	新型コロナ感染状況を 踏まえ、開催時期を遅らせ ることで開催することが できた。(7月⇒3月) 試合後のベンチ消毒な ど、感染予防対策を行いな がら大会運営を行った。	新型コロナウイルスの影響 で参加チームは少なっ たが、感染者を出すこ となく事業を行うこと が出来た。 申込チーム：6チーム (R1年9チーム)	事業を継続し、ス ポーツをする機会 を提供し、交流をと おして健康増進を 図り、参加チームを 増やすように努め る。		
(壮年ソフトボール) (玉城) No.1-4	壮年層の村民に対 し、スポーツをする機 会を提供し、交流をと おして健康増進を図 る。	新型コロナウイルス の影響が懸念される が、感染症対策を徹底 し参加チームを増やせ るよう事業実施を検討 していく。	スポーツ推進委員定例 会で感染対策及び大会運 営の調整を行い、各字への 呼びかけを行った。	参加チームが前年度 より多く、感染者を出 すことなく事業を行う ことが出来た。 参加チーム：13チーム 令和3年度：(5チーム)	事業を継続し、ス ポーツをする機会 を提供し、交流をと おして健康増進を 図る。		

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和4年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和4年度の取組み)	事業の成果 (令和4年度の成果)	今後の課題 (令和5年度の課題)	評価	総合判断
スポーツ推進委員の 資質向上 (玉城) No.2	各種スポーツの振興 と普及活動を支援し、 スポーツ推進委員個々 の資質の向上を促す。	県や中頭地区での研 修への積極的な参加を 促し、委員の資質向上 に努めるとともに、研 修の成果を各委員が自 主的に発揮するよう村 各種事業を企画・運営 する。	県や中頭地区での研修 に積極的に参加した。 また、村や中頭地区で行 われる大会や研修をスポ ーツ推進委員自ら企画し 実施していた。	スポーツ推進委員活動 数及び内容 ・第46回壮年ソフトボ ール大会 (7名) ・第51回村少年野球大会 (5名) ・第21回小学生駅伝大会 (6名) ・その他、定例会・研修等 (257名) 令和4年度:275名 (令和3年度:99名)	引き続き、県や中 頭地区での研修へ の積極的な参加を 促し、委員の資質向 上に努めるととも に、研修の成果を各 委員が自主的に発 揮するよう村各種 事業を企画・運営す る。	B	①現状の内容 で継続
恩納村体育協会、 国頭郡体育協会 の活動支援 (玉城) No.3	恩納村及び国頭郡の 体育協会に補助金を交 付し、その活動を支援 することによりスポ ーツの振興を図る。	体協主催の事業展開 及び体育施設の利用等 の支援を継続し、各種 目の競技力向上とスポ ーツ振興を支援する。	スポーツ振興、競技力向 上に繋がるような事業展 開の提案、施設の有効活用 (各字体協の練習会場の 調整)等の指導助言を行っ た。	国頭郡大会において ソフトボール、男女バ ドミントンなどで優秀 な成績を収めた。 ・ソフトボール 優勝 ・男女バドミントン 優勝 ・ボーリング 優勝 ・女子バレーボール 準優勝 ○恩納村体育協会 4,153,000 円 (決定額) 2,066,254 円 (確定額) ○国頭郡体育協会 2,353,890 円 (決定額) 2,353,890 円 (確定額)	引き続き体協主 催の事業展開及び 体育施設の利用等 の支援を継続し、各 種目の競技力向上 とスポーツ振興を 支援する。	C	①現状の内容 で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和4年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和4年度の取組み)	事業の成果 (令和4年度の成果)	今後の課題 (令和5年度の課題)	評価	総合判断
村立小学校体育施設 (プール)の一般開 放事業 (玉城) No.4	夏休み期間中、学校施設を有効活用し、村民の泳力及び体力の向上を図る。	新型コロナウイルス感染症の影響が懸念されるので、感染対策を行いながら安全なプール開放事業が行えるよう関係機関と調整し事業を実施していく。	プール開放に向けて各校長と協議を行い準備していたが、夏休み直前にコロナが急激に増えた為中止となった。	新型コロナウイルスの感染予防の観点から事業中止。	新型コロナウイルスの影響は少ないと考えられるが、安全なプール開放事業が行えるよう関係部署と調整し事業を実施していく。	C	①現状の内容で継続
各種団体等県外派遣 補助事業 (玉城) No.5	村民のスポーツに対する意欲を向上させ、各種球技、競技の振興を図る。	引き続き事業を継続し、該当する団体・個人等の情報収集を行うとともに、学校や学校教育課と連携し、速やかな申請手続きを促す。	派遣事業に該当する団体の情報収集、学校や公民館への情報提供、周知徹底に努めた、速やかな申請手続きを行った。	○小中学生(前年度) 水泳 3件(2) 個人 3(個人 2) バドミントン 1件(3) 団体 1(団体 3) ○一般(前年度) ソフトボール 1件(0) 団体 1(団体 0)	引き続き事業を継続し、該当する団体・個人等の情報収集を行うとともに、学校や公民館等と連携し、速やかな申請手続きを促す。	B	①現状の内容で継続
村体育施設維持管理 事業 (玉城) No.6	村内の体育施設の維持管理に指定管理者制度を導入し、その運営を行わせることにより、管理費用の軽減及び利活用の増進を目指す。	令和4年度は沖縄振興特別交付金を活用した電光掲示板整備や、赤間機能強化整備計画策定業務がある為、関係機関と協議しながら事業実施を図る。 また、令和5年度以降の指定管理者指定業務も行う。 新型コロナウイルス感染対策を行いながらプロス	関係部署と連携し、野球場電光掲示板の改修工事、赤間総合運動公園機能強化整備計画の策定を行うことができた。 施設利用率向上に向けて施設維持管理徹底の指導や、定例ミーティングを行い問題解決に向けた取組、村の要望等を伝え、指定管理側との意思疎通を図った。	利用者及び利用回数は増えてきておりコロナ禍前に戻りつつある。 令和4年度 利用者 98,356人 利用回数 (2,311回) 令和3年度 利用者 51,856人 利用回数 (1,670回) 令和2年度 利用者 51,360人	昨年度策定した機能強化整備計画にて計画した整備を実施していくので引き続き関係部署や機関と連携し事業を実施していく。 また施設の維持管理徹底とプロ野球やスポーツ合宿等の受入れを含め、	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和4年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和4年度の取組み)	事業の成果 (令和4年度の成果)	今後の課題 (令和5年度の課題)	評価	総合判断
		ポーツ合宿受け入れを含め、利用者に安心して施設を提供できるような施設運営を行っていく。	また、令和5年度以降の赤間総合運動公園指定管理者の選定を行い、引き続き安定した管理運営ができるよう努めた。	利用回数(1,499回) ● 指定管理自主事業 ・ヨガ教室・スラックライン教室 ・女子硬式野球沖縄大会 ・かけっこ教室 ・陸上教室 参加人数合計 2,120 人	利用者に安心して施設を提供できるよう努めていく。		

(4) 学力向上推進委員会事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和4年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和4年度の取組み)	事業の成果 (令和4年度の成果)	今後の課題 (令和5年度の課題)	評価	総合判断
学力向上推進事業 地域学習塾支援 (本山・伊佐) No.1-1	学力向上推進委員会の組織を強化し、学校、地域、家庭が連携してそれぞれの役割を分担しながら知・徳・体の子どもの育成を図る。	学推家庭地域教育部会を実施し、家庭教育や地域教育の課題を共有し、学校、地域、家庭が連携した取組内容を決定し、取り組む。	家庭地域教育部会で家庭学習や地域塾の取組を確認し、実践する計画であったが、コロナ禍により家庭地域教育部会が開催できなかった。	コロナ禍により家庭地域教育部会が実施できずに、課題を共有し、実践する事ができなかった。 地域塾を実施した自治会は5自治会であった。	学推家庭地域教育部会を実施し、家庭教育や地域教育の課題を共有する。 全自治会において地域塾を開催できるよう支援する。	B	①現状の内容で継続
学力向上推進事業石狩市中学生交流(伊佐) No.1-2	地理・歴史・文化の異なる北海道との交流体験を実施することで、沖縄の文化との違いについて学ぶとともに、人間性豊かな人材の育成を図る。 ※隔年ごとに派遣、受入れで実施する。	引き続き、コロナウイルスの状況、対策を十分考慮し、互いの地理、歴史、文化の違いについて学ぶことのできる充実したプログラムを計画する。	石狩市へ派遣の年であったが、コロナウイルスの影響により令和4年度も中止となった。	令和4年度もコロナウイルスの影響により中止。 次年度は、引き続き派遣となる。	令和5年度はコロナウイルスも緩和されているため派遣が行えるよう調整していく。		
講演会 (本山) No.1-3	教職員や保護者の資質の向上に資することを目的として著名人を招き、講演会を開催する。	恩納村教育の日は、多くの村民が教育を考える機会として、設定されていることから、わかりやすい講演内容の講演会の実施は必要である。	コロナ禍により、3密を避けるために実施できなかった。	コロナ禍により、3密を避けるために実施できなかった。	学校、家庭、地域が共に学べるテーマでの講演会を開催していく。		

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和4年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和4年度の取組み)	事業の成果 (令和4年度の成果)	今後の課題 (令和5年度の課題)	評価	総合判断
県外先進地視察 研修 (本山・比嘉) No.1-4	学習内容の定着率の 高い県外の都道府県に 小中学校の教職員を派 遣し、学力定着に向け た指導方法の工夫改善 に資する。	課題解決のための県 外派遣研修は必要であ る。	コミュニティースク ール先進校等の視察研修を 計画するはずであったが、 コロナ禍により県外出張 が実施できなかった。	コロナ禍により、実施 できなかった。	ICT を活用した 個別最適な学びに 関する先進地区を 訪問し、本村の取組 に還元する。		
学推実践報告会 (本山・比嘉) No.1-5	恩納村学力向上推進 の取り組みの成果と課 題を、学校・家庭・地域 の立場から検証する。	今後も各学校区での 実践報告会の実施の課 題解決を図り、より充 実した実践報告会とす る。	各学校区でコロナ感染 状況を踏まえながら、実践 報告会を実施することが できた。	各学校区で実践報告 会を開催することがで き、学校、家庭、地域の 実践を共有し、周知す ることができた。	各小中学校と連 携し、全小中学校で 実践報告会を開催 していく。		
諸検定料支援 (伊佐) No.1-6	全国規模で実施され ている漢字検定・英語 検定・数学検定等を希 望する児童生徒に半額 補助し、学力の意識化 と定着を図る。	前年度と比べ、合格 率は小学校、中学校共 に上がっているが、中 学校においては総受験 者数の減が見られる。 中学校側からは、受 検補助に係る事務の煩 雑さの声があるため、 ヒアリングを行い事務 手続きの整理が必要で ある。	校長会、教頭会にて検定 の補助について話し合い、 より多くの児童、生徒が受 験できるよう補助額など 調整した。	受験者数（合格者数） 【英検】 小学校 6 名（5 名） （合格率 83%） 中学校 144 名(69 名) （合格率 48%） 【漢検】 小学校 396 名（287 名） （合格率 72%） 中学校 104 名(25 名) （合格率 24%） 【数検】 小学校 89 名(65 名) （合格率 73%）	受験者数が減っ ていきているため、 チラシ等を作成し て保護者への周知 を行い受験者増に つなげる。		

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和４年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和４年度の取組み)	事業の成果 (令和４年度の成果)	今後の課題 (令和５年度の課題)	評価	総合判断
未来塾 (本山) No.1-7	高校受験を控えた中学校３年生に対し、学習への不安・課題を解消するために実施する。	コロナ禍による実施日数の減少があった。そのため講師のなり手が減少している。講師の確保の為に工夫（コロナ禍における講師料の定額等）が必要である。	講師と学習方法を検討し、生徒の要望も踏まえ、個別学習指導を実施した。	中学校 132 名（43 名） （合格率 33%） 総受検者数（前年度） 合格率（前年度） 小学校:491 名(620 名) 75%（75%） 中学校:380 名(416 名) 36%（41%） 全体:871 名(1,036 名) 58%（58%） 生徒が意欲的に塾に参加することができ、高校受験に対する意識が高まった。 参加生徒数 令和４年度:（ ）内全生徒数 １年：43 人（116 人中） ２年：25 人（119 人中） ３年：36 人（107 人中） 進学率 令和４年度：99% (令和３年度：98%) (令和２年度：100%) (令和元年度：100%) (平成 30 年度：96.9%) (平成 29 年度：96.5%)	早期に講師確保を行い、週４日開催に向けて調整する。 希望する生徒については全員参加できるようにする。		

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和4年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和4年度の取組み)	事業の成果 (令和4年度の成果)	今後の課題 (令和5年度の課題)	評価	総合判断
スキルアップ研修 (本山) No.1-8	各学年・教科1人体制という課題を解決するため、村内教職員職員が協力して協議し、互いの資質・能力を高めるために行う。	コロナ禍で、県外から講師を招聘して行う授業研究会の実施は厳しい状況にある。	授業実践を中心とした取組みを行い、村教科支援訪問で授業実践を支援した。	教科支援訪問では、指導主事が、ほぼ全ての教員の授業を参観し、指導助言を行うことで、教員個人のスキルアップが図られた。	コロナ禍で途絶えたこともあり、先進地の開拓が必要となる。積極的に情報の入手を行いつつ、事業の活用を行っていく。		
各種コンクール (本山・比嘉) No.1-9	各種コンクール事業を開催することにより、児童生徒に発表の機会を与える。	夏休み等長期休業中での取組ができるように、募集時期の変更が必要である。	6月に校長会や教頭会で作品募集に関して、意識を高めるよう要請した。また、各学校での表彰式を行った。	作品出展の意義が意識化され、積極的な出展が見られた。児童生徒全体の前での表彰により、校内全体で激励され意欲が高まった。	6月の校長会にて周知し、ゆとりを持って児童生徒が応募できるようにする。		

(5) 博物館所管事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和4年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和4年度の取組み)	事業の成果 (令和4年度の成果)	今後の課題 (令和5年度の課題)	評価	総合判断
博物館運営 (崎原) No.1	博物館は村の自然、歴史、文化を発信する生涯学習機関としてふるさと学習の拠点となるよう、関連する資料の収集、整理、保存活用に努めると共に、展示公開、調査研究を充実させ、企画展、各種講座、芸術鑑賞の機会を通して、ふるさと学習にふさわしい施設としてその活性化を図る。	コロナに対し、利用者が安心・安全に利用できるよう対策を講じ、企画展や博物館講座などの事業を展開していく。また、学校教育での利用などの内容を充実させることで、博物館活動の活性化を図る。	・企画展や各種講座などの事業実施に際し、新型コロナウイルス対策を行った。 ・村内関係団体と連携して、沖縄復帰50周年記念事業を実施した。 ・村内学校への出前授業では新規メニューを実施するなどし、内容充実を図った。 ・引き続き、社会教育育成団体の活動支援を行い、村民の施設使用の増加を図った。	・ 博物館利用実績 開館日数 293 日 博物館利用者数 15,318 人 (前年度 6,897 人 8,421 人増) 入館者 11,407 人 (前年度 4,472 人 6,935 人増) 施設等使用者 3,911 人 (内、自動交付機利用者 1,615 人) 前年度施設等利用者 2,425 人 1,486 人増 ・ 新型コロナウイルス対策を講じ、各種博物館事業を実施した。 ・ 主に4回の展示会、7回の講座等を開催した。また、村主催、JAXA 沖縄宇宙通信所の共催にて沖縄復帰 50 周年記念特別展を開催した。 ・ 村内学校の受入対応、出前授業 計 16 回 (対象 469 名)	博物館 Web サイトや SNS、村公式 LINE の活用などをおし、広く博物館活動の情報発信をすることで、博物館活動の活性化を図る。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和4年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和4年度の取組み)	事業の成果 (令和4年度の成果)	今後の課題 (令和5年度の課題)	評価	総合判断
企画展・展示会 (後藤・吉田) No.2	博物館が所蔵する資料や文化財などの資料の活用のほか、地域と連携しながら、恩納村の情報を発信し、村の歴史や文化に対する理解を深めてもらう場とする。	新型コロナウイルス感染症への対策を講じながら、多様な展示会を開催し、村民等に様々な生涯学習の機会を提供できるよう努める。	・当初、年4回の展示会開催を計画 地域の方への聞き取りや新資料の公開、他機関からの資料借用などを行い、内容の充実に努めた。	年4回の展示会の開催と外部団体との共催事業を実施した。 ①企画展「折り紙作家渡邊慧作品展－折り紙の生きものたち－」 期間：4/26～5/15 (14日間) 来館者：1,257名 ②慰霊の日特別展「恩納村の戦争 1931年－1945年」 期間：5/31～6/26 (23日間) 来館者：936名 ③企画展「みづかな鳥たち－恩納村の鳥類－」 期間：7/16～9/19 (55日間) 来館者：2,018名 ④企画展「恩納村の稲作」 期間：1/12～2/12 (28日間) 来館者：1,046名	企画展などをおとして、恩納村の情報を発信することで、村民等に様々な生涯学習の機会を提供できるよう取り組む。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和4年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和4年度の取組み)	事業の成果 (令和4年度の成果)	今後の課題 (令和5年度の課題)	評価	総合判断
復帰 50 年記念事業（崎原） No.3	沖縄日本復帰 50 年を記念し、記念事業を文化係及び文化関係係や団体と連携して事業を実施する。		①復帰 50 年記念特別展 事前告知展示会 美ら島おきなわ文化祭関連事業として実施 ②復帰 50 年記念特別展 「復帰から半世紀を迎えたうんな展」 美ら島おきなわ文化祭村独自事業として実施。復帰前後から復帰後 50 年間の村を紹介。文化係、村史編さん係、文化協会と連携して実施 ③日本復帰 50 年企画展 保存運動と仲泊遺跡展 本土復帰 50 周年記念として復帰とかかわりの深い仲泊遺跡について紹介 ④沖縄復帰 50 周年記念事業『小惑星探査機「はやぶさ 2」帰還カプセル・リュウグウサンプル特別展』 沖縄復帰 50 周年記念事業として、JAXA 沖縄宇宙通信所と連携し、特別展を開催した。	①復帰 50 年記念特別展 事前告知展示会 期間:5/3-5/22（14 日間） 来館者：1,190 名 ②復帰 50 年記念特別展 「復帰から半世紀を迎えたうんな展」 期間:10/4-12/4(53 日間) 来館者：1,929 名 ③日本復帰 50 年企画展 保存運動と仲泊遺跡展 期間：7/12～7/31 延長：8/1～8/28 (延長含め 42 日間) 来館者：1,154 名 ④沖縄復帰 50 周年記念事業『小惑星探査機「はやぶさ 2」帰還カプセル・リュウグウサンプル特別展』 期間：3/24～28（5 日間） 来館者：1,806 名	10 年後の復帰 60 年事業に向けて、情報蓄積や資料の収集を引き続き実施する必要がある。	A	③事業の廃止（完了）

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和4年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和4年度の取組み)	事業の成果 (令和4年度の成果)	今後の課題 (令和5年度の課題)	評価	総合判断
博物館講座 (後藤・吉田) No.4	博物館主催の講座を ととして、村民に村の 自然、歴史、文化につい ての理解を深める場を 提供する。	新型コロナ感染症へ の対策を講じながら、 講座を開催し、村の SDGs の取り組みに貢 献できるよう多様な企 画に取り組む。	当初、年6回の各種講座 実施を計画。計画どおりに 実施できるよう講師など と調整を行った。 また、村の SDGs に貢 献できるよう、サンゴの産 卵観察会やウミガメの講 座などの開催を試みた。	①「一枚折りができるまで」 開催日：5/3、5/7 参加者：計153名 (定員設定なし) ②「サゴの産卵観察会」 開催日：6/22 参加者：24名(大人14 名、子ども10名) (募集定員親子枠20名、 一般5名、申込人数34名) ③「ウミガメのヒミツを 知ろう！ーウミガメの 一生ー」 開催日：7/3 参加者：21名 (募集定員30名) ④「恩納村の豊年祭」 開催日：9/4 参加者：26名 (募集定員30名) ⑤「ベチバーでしめ縄飾 り作り」 開催日：12/17 参加者：25名 (募集定員20名) ⑥民具体験「お米の脱穀 と精米体験」 開催日：1/22 2回 参加者：累計12名 (定員設定なし)	子どもや親子 で参加しやすい ような講座を開 催し、村の SDGs の取り組みに貢 献できるよう多 様な企画に取り 組む。	A	①現状の内容 で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和4年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和4年度の取組み)	事業の成果 (令和4年度の成果)	今後の課題 (令和5年度の課題)	評価	総合判断
サンセットコンサート (後藤) No.5	博物館を活用し、村民を中心に優れた芸術・音楽・芸能等を鑑賞する場を提供することで、芸能等への関心を高め、恩納村の文化振興に資することを目的とする。	映像記録保存事業の成果で得た村内の文化芸能や、ジャンルにとらわれない優れた芸術・音楽・芸能等を幅広く鑑賞できるよう積極的に活用していく。	コロナにより中止が続いていたが、音楽の鑑賞機会提供のため、沖縄県指定無形文化財保持者による公演出演依頼を行った。	サンセットコンサート「八重山・与那国の唄会」 出演者：宮良康正、鳩間可奈子、宮城葉子 開催日：3/12 来館者：98名 (定員座席数 80 席)	村内芸能等の活用や村民に優れた音楽や芸能の鑑賞機会を提供できる企画を実施する。	A	①現状の内容で継続
『恩納村博物館年報』(第13号)の刊行 (後藤・吉田) No.6	博物館の過年度の活動に関する情報をまとめることで、記録を残し、将来的な資料とする。『恩納村博物館紀要』と『恩納村博物館年報』を隔年にて発刊。	令和4年度年報刊行予定。年報の刊行に向け、令和2・3年度の事業実績をまとめる。	学芸担当、文化財担当の両者が過年度の活動内容をまとめ、原稿を作成した。	令和2・3年度の学芸、文化財の事業等をまとめた『恩納村博物館年報』第13号を刊行した。	次年度は『恩納村博物館紀要』の刊行を予定。 恩納村の自然、歴史、文化にかかわる原稿を募集する。	A	①現状の内容で継続
地域伝統芸能等保存事業 (後藤) No.7	一般財団法人地域創造の事業を活用し、地域に伝承される伝統芸能等の映像を記録することにより、今後の更なる伝統芸能の伝承及び地域活動を支援する。	南恩納区と調整を行いながら、映像記録保存事業を実施する。	実施に向け、南恩納区と調整していたものの新型コロナにより実演が取り止めとなった。 新型コロナによる辞退の場合、次年度も申請が可能となったため、村内自治会に対する希望調査を実施した。	令和4年度の事業については助成金を辞退し、中止した。 令和5年度事業に向け、実施希望があった恩納区と調整し、助成申請を行い、助成内定を受けた。	恩納区と調整を行いながら、「二才踊りと女踊り」について、映像記録保存事業を実施する。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和4年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和4年度の取組み)	事業の成果 (令和4年度の成果)	今後の課題 (令和5年度の課題)	評価	総合判断
常設展示室リニューアル事業 (後藤) No.8	開館 20 周年の節目を機に、既存の常設展示に加え、自然史分野の展示を発展・充実させた常設展示の再構築のため、「自然ゾーン」を新設し、博物館活動の更なる発展を図っていく。	当初予定していた令和 5 年度の展示リニューアル実施に向け、展示検討委員会の会議を開催し、「自然ゾーン新設基本計画」を策定する。	・基本計画策定に向け、4 回の会議を開催した。 ・展示物製作として、岩石標本製作業務を実施した。	・『恩納村博物館自然ゾーン新設基本計画』を発刊した。 ・収集した岩石資料のうち、8 点を選び業者に委託し、岩石標本を製作した。	リニューアルに向け、「展示実施設計」を策定する。	A	①現状の内容で継続
文化財普及事業 (仲嶺) No.9	恩納村の共有財産である文化財の普及及び活用を目的とし、文化財保護愛護思想の啓発を図る。	これまでの実施状況を踏まえ配布資料や案内内容の検討を行う。また、村内小中学校と連携し児童や住民に文化財の普及を行う。	① 慰霊の日展示会 文化財、学芸、村史の 3 係合同の展示会を開催 ②スタンドバナー展示 サンゴってな～に展 自立式スタンドにバナー(幕)を張りサンゴの生態や村の取り組みを紹介 ③土器作り講座(全 3 回) 土づくり～土器焼きまでの体験講座の実施 目標人数：20 名	①慰霊の日特別展「恩納村の戦争 1931 年－1945 年」 期間：5/31～6/26 (23 日間) 来館者：936 名 ②スタンドバナー展示 サンゴってな～に展 期間：8/3～9/19 (41 日間) 来館者：1,622 名 ③土器作り講座(全 3 回) 1 土づくり(1/28)15 名 2 土器づくり(1/29)12 名 3 土器焼き(2/4)16 名 ※応募は定員 20 名に達していたが、当日に体調不良等のキャンセルにより、参加人数が減	展示会を年 2 回、講座を年 3 回実施する。 スタンドバナーを用いた山田城跡の展示会や土器作り講座を実施し、文化財愛護思想の普及を図る。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和4年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和4年度の取組み)	事業の成果 (令和4年度の成果)	今後の課題 (令和5年度の課題)	評価	総合判断
			④恩納村文化財ボランティア養成講座(全4回) 歴史の道ガイドに必要な村内文化財などの講座を全4回(3/15、3/16、3/17、3/18)開催した。 目標修了証授与者 5名 ⑤出前講座 うんな中 1 年生総合学習 歴史の道と村内歌碑等の文化財巡りを実施。参加者の安全管理のため、分散して案内を実施 ⑥出前講座 山田小学校 3・4 年生 総合学習 3 年生は山田区巡り・4 年生は村内歌碑巡りを実施。クイズやナビーちゃんなどを用い、わかりやすい講座となるよう取組んだ。 ⑦出前講座 恩納小学校 3 年生 総合学習 恩納区の文化財巡りと歴史の道見学。クイズ形式で案内し、興味を持たせる取り組みを実施した。	④恩納村文化財ボランティア養成講座(全4回) 1 恩納村の文化財 6 名 2 恩納村の動物 6 名 3 恩納村の歴史の道 7 名 4 講師のガイドから実践方法を学ぶ 6 名 ※終了証授与者 4 名 ⑤出前講座 うんな中 1 年生総合学習 1 事前講座(5/19) 2 歴史の道見学(6/9) 3 村内歌碑巡り(1/31) 参加者：各 117 名 ⑥出前講座 山田小学校 3・4 年生 総合学習 3 年生 山田区巡り(7/6) 参加者：23 名 4 年生 村内歌碑巡り(1/31) 参加者：23 名 ⑦出前講座 恩納小学校 3 年生 総合学習 1 恩納区巡り(7/12) 2 歴史の道見学(2/21) 参加者：各 38 名			

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和4年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和4年度の取組み)	事業の成果 (令和4年度の成果)	今後の課題 (令和5年度の課題)	評価	総合判断
			⑧社会教育課生涯学習 合同展示 パネル展 「つながるまなび」 地域・学校協働活動の紹介	⑧社会教育課生涯学習 合同展示 パネル展 「つながるまなび」 期間：2/25～3/9 (11日間) 来館者：416名			
山田城跡重要遺構確認調査 (仲嶺、国吉) №10	国指定史跡山田城跡の整備に向けて取り組む。	山田城跡重要遺構確認調査として、8カ所の発掘調査を実施する。	文化庁補助事業を活用し、継続して山田城跡重要遺構確認調査を実施した。	山田城跡重要遺構確認調査を実施した。令和4年度は5ヶ所の調査を実施。石積みの検出をし、城壁の現状と構造を確認し整備に向けた基礎情報の蓄積を図った。	山田城跡重要遺構確認調査として令和4年度の未実施箇所及び引き続き山田城城壁の発掘を実施し情報蓄積を行う。	A	①現状の内容で継続
山田城跡公有地化事業 (崎原) №11	山田グスクの公有地化事業を実施し、指定地内7割以上の公有化に取り組む。 指定地面積 43,132.37 m ²	次年度以降も補助金を活用して指定地内70%以上の公有地化を実施する。	文化庁補助金を用いて公有地化事業を継続して実施した。5箇年計画で指定地の70%を公有地化にする取り組み。 R2 10,974 m ² 公有地化 R3 8,245 m ² 公有地化 R4 5,244 m ² 公有地化	令和4年度は指定地内7筆(民有地5,244 m ²)の公有地化事業を実施した。5年計画で公有地化70%の予定を3年目で達成することができた。 公有地化済 30,773.37 m ² (71%)	補助金を活用し、指定地内80%以上の公有地化を実施する。	S	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和4年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和4年度の取組み)	事業の成果 (令和4年度の成果)	今後の課題 (令和5年度の課題)	評価	総合判断
恩納村文化財指定業務 (仲嶺) No.12	村内に所在する貴重な文化財の中から村指定候補を調査、検討し村指定文化財の増加を図る。 恩納村指定文化財 ① 史跡 真栄田の一里塚 ② 有形文化財(民俗) 浜崎御嶽、カンジャガー、 ウヰウガマ、南恩納の龕 ③ 歴史資料 唐人墓の墓碑、恩納村の印部石、国頭郡恩納間切各村全図及び字図等 ④ 書跡 徐保光詩文、王文治詩文 計 10 件	継続して村指定文化財の増加を図るため候補の検討と基礎情報の蓄積を行う。	村指定文化財増加に向け各集落の指定候補となる文化財の情報収集を行う。また、新規文化財情報公開に努める。	名嘉真地区、安富祖地区などの文化財試掘調査を実施したが、今回調査した中では指定候補となる文化財の情報はなかった。 谷茶地区で聞き取り調査を実施した映像を新たに展示会で公開し情報の収集に努めた。	指定文化財候補検討の為、村内字など聞き取りを行い、村指定文化財増加にむけ情報収集を実施する。	C	①現状の内容で継続

(6) 学校給食センター所管事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和4年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和4年度の取組み)	事業の成果 (令和4年度の成果)	今後の課題 (令和5年度の課題)	評価	総合判断																		
栄養教室の開催 (比嘉) No.1	児童生徒に食に対する正しい知識を身につけさせると共に学校給食の重要性を認識させる。 【学校給食の目的】 ①適切な栄養の摂取による健康の保持増進をはかること。 ②日常生活における食育について正しい理解を深め、健全な食生活を営むことができる判断力を培い、及び望ましい食習慣を養うこと。 ③学校生活を豊かにし、明るい社交性及び協同の精神を養うこと。 ④食生活が自然の恩恵の上に成り立つものであることについての理解を深め、生命及び自然を尊重する精神並びに環境の保全に寄与する態度を養う。	継続して各学校と連携して、食育指導を行う。	巡回指導、食育授業を行った。 給食週間に役場ギャラリーでパネル展示(給食が出来るまで)の展示及び各学校へ展示物の配布を行った。 うんな中学校で琉球漆器を使った給食体験を行った。 食育授業 <table><tr><td>恩納幼稚園</td><td>1回</td></tr><tr><td>山田幼稚園</td><td>1回</td></tr><tr><td>山田小学校</td><td>6回</td></tr><tr><td>うんな中学校</td><td>1回</td></tr></table> (前年度) <table><tr><td>恩納幼稚園</td><td>1回</td></tr><tr><td>喜瀬武原小学校</td><td>1回</td></tr><tr><td>山田小学校</td><td>2回</td></tr><tr><td>恩納小学校</td><td>3回</td></tr><tr><td>うんな中学校</td><td>1回</td></tr></table>	恩納幼稚園	1回	山田幼稚園	1回	山田小学校	6回	うんな中学校	1回	恩納幼稚園	1回	喜瀬武原小学校	1回	山田小学校	2回	恩納小学校	3回	うんな中学校	1回	巡回指導、食育授業、を実施し、食に対する関心を持つことができた。 沖縄の伝統工芸品や琉球料理など歴史や文化を学ぶことが出来た。	継続して各学校と連携して、食育年間指導計画を作成し食育指導を行う	B	①現状の内容で継続
恩納幼稚園	1回																								
山田幼稚園	1回																								
山田小学校	6回																								
うんな中学校	1回																								
恩納幼稚園	1回																								
喜瀬武原小学校	1回																								
山田小学校	2回																								
恩納小学校	3回																								
うんな中学校	1回																								

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和４年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和４年度の取組み)	事業の成果 (令和４年度の成果)	今後の課題 (令和５年度の課題)	評価	総合判断
	⑤食生活が食にかかわる人々の様々な活動に支えられていることについて理解を深め、勤労を重んずる態度を養うこと。 ⑥我が国や各地域の優れた伝統的な食文化についての理解を深めること。 ⑦食料の生産、流通及び消費について、正しい理解に導くこと。						
村産食材の積極的な活用 (比嘉) No.2	安全な食材の確保と村内生産者との連携による地産地消の推進	今後も継続して安定的な食材の確保のため、おんなの駅、農水関係者と連携を図る。	年間を通して、地場産物を使用した。 J Aより安富祖米、漁業組合よりモズク、アーサ、おんなの駅より冬瓜、モーイ、ネギ、大根等地元食材を購入し地産地消の推進を図った。	おんなの駅や農水関係者と連携を図り地場産物を、提供することが出来た。 安富祖米年間使用量 11,445 kg(11.45t) 100 % 安富祖米で賄えた。 モズク年間使用料 255 kg アーサ年間使用料 101 kg	今後も継続して安定的な食材の確保のため、おんなの駅、農水関係者と連携を図る。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和4年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和4年度の取組み)	事業の成果 (令和4年度の成果)	今後の課題 (令和5年度の課題)	評価	総合判断
給食センター見学の推進 (比嘉) No.3	給食調理の状況を見学させ、その安全性を認識させる。	今後も継続して見学実施にむけた行事調整を行う。	コロナの影響により見学なし。	コロナの影響により見学なし。	今後も継続して見学実施にむけた行事調整を行う。	C	①現状の内容で継続
給食費徴収率の向上 (比嘉) No.4	安全で質の高い給食の提供するため、給食費の徴収率の向上を図る。 【学校給食費】 (保護者負担) ○学校給食法 第11条第2項 (督促手続き) ○民事訴訟法第382条	長期未納者への納付指導、納入計画の提案を行う。 電話連絡や督促に応じない方については、簡易裁判所からの支払督促申立により滞納整理を行う。	幼稚園児、中学生給食費無償、小学生 新型コロナウイルス感染症対策事業により給食費免除のため、現年分の給食費は、教職員、センター職員、区域外児童生徒のみ徴収。 過年度未納者に対し電話督促、督促状の送付を行った。 裁判所からの督促申立なし。	○現年度分徴収率 ※収入額 令和4年度：100% ※現年度納付額 7,278,310 円 令和3年度：99.91% ・区域外生徒1名 6,450 円未納 ○過年度分徴収率 令和4年度：36.60% ※過年度納付額 269,400 円 令和3年度：67.10% <u>30.5%減</u>	今後も継続して、長期未納者への納付指導、納入計画の提案を行う。	B	①現状の内容で継続
恩納村第3子以降学校給食費免除 (比嘉) No.5	出生率の向上や保護者が安心して子供を産み育てることができる環境づくりを促進するとともに、保護者の負担軽減を図るため、第3子以降の学校給食費免除を実施する。	新型コロナウイルス感染症対策事業による給食費免除の1年延長により令和4年度は事業の実施なし。	事業の実施なし。	事業の実施なし。	給食費完全無償化により事業の実施なし。	C	③事業の廃止

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和4年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和4年度の取組み)	事業の成果 (令和4年度の成果)	今後の課題 (令和5年度の課題)	評価	総合判断
学校給食費完全 無償化事業 (仲村・比嘉) No.6	給食費の無償化を実施し、子育て世帯の保護者への経済的負担を軽減し、より子育てしやすい環境の向上を図る。	今後も協議を継続し、完全無償化の実施時期を決定する。	学校給食費完全無償化に向けて財政担当者と協議を行った。	令和5年3月定例議会で令和5年4月からの小学生給食費無償化が決定し、幼稚園・小学校・中学校の無償化実施	給食費完全無償化により事業の実施なし。	A	③事業の廃止 (完了)
恩納村学校給食調理配送業務等 民間委託事業 (仲村・比嘉) No.7	学校給食センター職員の退職に伴い、調理及び搬入等に本務職員が不在となるため。 学校給食調理搬入業務について民間委託を検討する。 現行の安全管理水準や学校給食の質を確保したうえで、民間のノウハウを活用し、効率的運営を図ることで安定的、継続的に学校給食業務を運営することを目的とする。	教育委員会の基本方針(案)を決定し、村総合教育会議への提案、村議会へ給食センター運営方針について説明を行う。	村長及び財政部局と恩納村学校給食調理配送業務等民間委託基本方針及び、今後の給食センター運営について協議を行った。	学校給食運営について協議を行った。調理員の本務職員採用は、厳しいという意見もあり民間委託の方針	村総合教育会議への提案、村議会へ給食センター運営方針について説明を行う。 令和6年4月、学校給食調理配送業務民間委託開始に向けて事務作業を進める。	B	①現状の内容 で継続

4 外部有識者の意見について

教育委員会の内部評価を終えて後、評価の客観性を確保するため、外部評価委員会に諮問して点検評価結果に関する意見を求めました。外部評価委員会の構成委員及び意見の内容は次のとおりです。

(1) 恩納村教育委員会の事務事業の点検評価外部評価委員会(令和5年7月19日現在)

役 職	氏 名	任 期	備 考
委 員 長	仲 西 智 直	令和5年7月19日～当該事務事業年度完了まで	元村教育委員会職員
副 委 員 長	星 野 文 彦	令和5年7月19日～当該事務事業年度完了まで	元村 PTA 連合会会長
委 員	小 谷 久 美	令和5年7月19日～当該事務事業年度完了まで	元村婦人会会長

(2) 意見

当委員会は、教育長の諮問に基づき、令和5年7月19日(第1回)、7月31日(第2回)、8月18日(第3回)に委員会を開催し、諮問された各種事務事業の評価や課題把握の根拠などについて、課長及び担当者の説明を受けながら評価を行いました。また第3回事務事業点検外部評価委員会(8月18日)には、これまでの会議の経緯の確認と意見の集約を行い、その結果を答申いたします。

記

① 点検評価報告書について

教育委員会の事務事業の点検及び評価は、事務事業評価シートにより事業目標、事業の成果、今後の課題、事務事業の評価について、課長及び担当者から事業評価の説明を受け、事業実績や事業の成果、事業に対する自己評価等が適切であるかを確認した。

また、村民の生涯学習を視点とし学校教育、社会教育関係事業について事務事業の点検及び評価を行った。点検評価においては、今年度で14年目となり、当初からの点検評価に比べると課題への取組や事業の改善に向けての取り組みも行われきたが、事業説明の中で委員からあった意見・提言については、今後の事業に反映させ、更なる教育行政の充実を図っていただきたい。

令和4年度も前年度と同様に新型コロナウイルス感染症の感染防止により、実施予定だった各事業の中には事業の中止や規模縮小を余儀なくされ、今年度の事務事業点検評価報告書においても、前年度の評価基準を参考に、事業実施に向けた取り組みを行っている場合は、特に次年度への見込まれる効果を期待しての評価とすることにした。

事務事業の点検及び評価は、事業の計画、実施、検討を行う職員自らが事業への意識を高め、事務事業への村民の満足度の向上や期待への適合などを視野に入れるとともに説明責任への意識を持つことが大変重要である。成果の見えにくいといわれる教育行政について、平成30年度よりPDCAサイクルに、R(リサーチ：情報収集)を付与し、RPDCAでの調査・研究も含めた事業展開ができるよう常に点検や評価を繰り返すことが重要と考え、更に教育行政への村民ニーズを的確に捉えた事業の実施に繋げていけるよう努力を促したい。

この評価結果につきましては、次年度以降の事業の取り組みを具体的に進めやすくするためのものであり、予算や事務改善等の施策を推進するための方向性を確認するものとして、活用していただきたい。

② 事務事業の評価について

令和４年度事業評価においては、事業数６１件の事務事業の外部評価を点検した。取組み内容や事業成果においては、全体的に評価は概ね妥当だと理解し、概ね改善されたと理解している。また、各事業の実施においては、例年の課題である対象者への事業の効率的な周知のあり方や村民ニーズに合った事業内容については、新型コロナウイルス感染症の感染防止を徹底し事業実施に向けて改善が図られた。最大の事業効果が得られるよう、対象事業について内容は勿論の事参加者が増える更なる工夫や対策を講じていただきたい。なお、外部評価をしていく中で、委員から多様な意見・提言がありましたので、主なものを列記します。

学校教育関連所管事業の２３事業においては、コミュニティースクール設置事業(No.2)、校長会・教頭会(No.3)、奨学資金貸与事業(No.6)、キャリア教育事業（職場体験学習・職場見学）(No.7)、幼稚園管理備品・保育振興備品整備事業(No.9)、幼稚園教育の推進(No.10)、教育振興備品整備事業(No.11)、就学支援事業(No.12)、教育の情報化コーディネーター配置事業(No.14)、英語指導助手派遣事業(No.16)、対外競技派遣及び中学校部活動支援事業(No.17)、指定研究事業(No.19)、うんな中学校ＳＤＧｓプロジェクト（No.22）１３事業をＡ評価とした。

教育委員会研修事業(No.1)、教育相談事業(No.4)、教育委員会学校訪問(No.5)、幼稚園教諭研修会(No.8)、スクールカウンセラー設置事業(No.13)、特別支援員配置事業(No.15)、諸検査事業(知能検査・進路適正検査・i-check 調査他)(No.18)、小中学校施設整備事業(No.20)、学校施設維持管理事業(No.21)、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金事業(No.23)の１０事業をＢ評価とした。

Ａ評価の教育の情報化コーディネーター配置事業は前年度の評価を上回った。教育の情報化コーディネーター配置事業については、学校のＩＣＴ（Information and Communication Technology（情報通信技術））支援員を１名増員し、学校への支援体制強化が図られたことを評価した。また、うんな中学校ＳＤＧｓプロジェクトについては、前年度のＳ評価から本年度はＡ評価となっているが、前年度は中学３年生が地域活性化に向けた事業スタートの年としての取り組み、事業の大きな成果を評価したが、本年度は継続的な実施となり、事業内容は本村の課題を解決するため、民間企業や全庁的な取り組みは前年度同様に評価するが、本年度は目標どおり事業が達成できたものと判断しＡ評価としたが、引き続き事業の継続のため取り組んでいただきたい。

Ｂ評価の教育委員会研修事業は、前年度コロナ禍で研修会等が開催されてなかったためＣ評価となっていたが、本年度は感染対策を行って開催されるようになったことによりＢ評価となった。引き続き教育委員の教育に関する見識を高める取り組みを継続していただきたい。

各事業においては、更に工夫を重ね充実した事業を実施し、更に高い評価を得られるよう努力していただくことを期待したい。

社会教育関連所管事業の１２事業においては、文化情報センター業務(No.12)をＡ評価とした。

自然生活体験学習「サバイバルキャンプ」事業(No.3)、成人式事業(No.4)、人材育成激励金支給事業(No.10)、各種団体への活動支援(No.11)の４事業をＢ評価とした。

青少年団体等活動助成事業(No.1)、国際交流派遣事業(No.2)、社会教育教室(No.5)、いきいき女性教室(No.6)、楽しく子育て教室(No.8)、公民館講座(No.9)の７事業は前年度と同様新型コロナの影響で計画した事業の目標の一部は達成されたがＣ評価とした。

地域リーダー研修(No.7)をＤ評価とした。

Ａ評価の文化情報センター業務は、国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築する「レファレンス協同データベース」の調べ物検索の事例登録が多かったことで、県内で唯一５年連続で国会図書館よりお礼状の授与を受けたこと、更に県内で唯一調べる学習コンクールを実施されていることを評価した。Ｂ評価の自然生活体験学習「サバイバルキャンプ」事業は、本年度実施できなかった関連事業はあったものの、事業自体は感染対策を施した上で実施できたことを評価し、前年度の評価を上回った。Ｄ評価の地域リーダー研修は、前年度同様に事業は実施されていないが、実施に向けて取り組まれたものの、コロナ禍で講師等の調整がうまくいかず実施できなかったためＤ評価となっており、事業実施に向け村民に情報が行き渡る周知の方法や村民の声を拾う仕組み等の対応を考える必要があ

る。

社会教育関係所管事業の評価が本年度も全体的に低いのは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大によるものであるが、感染防止を図った上で住民が安心して安全に事業に参加し、村民の学ぶ機会が失われないよう事業実施に向けて引き続き工夫していただきたい。

社会体育関係所管事業の6事業においては、A評価はなく、各種社会体育事業の充実(No.1)、スポーツ推進委員の資質向上(No.2)、各種団体等県外派遣補助事業(No.5)、村体育施設維持管理事業(No.6)の4事業をB評価とした。

恩納村体育協会、国頭郡体育協会の活動支援(No.3)、村立小中学校体育施設(プール)の一般開放事業(No.4)の2事業をC評価とした。

B評価の各種社会体育事業の充実(No.1)は、前年度に引き続き年度当初からコロナ禍の影響で感染防止のため事業が中止となったが、実施に向けての取り組みと屋外でのスポーツ事業が感染対策を行い実施できたことを評価し、前年度の評価を上回った。

C評価の2事業については、前年度と同様に事業実施はなく、同じくC評価となった。スポーツをする機会をとおして村民の健康増進を目指し、事業へ参加する村民が安心して参加できるよう努力していただきたい。

学力向上推進委員会事業の1事業においては、全9事業を1事業としてB評価とした。

令和4年度も前年度と同様にコロナ禍の影響により、生徒及び教職員の県外派遣事業が中止になっている。予定されていた各事業とも学力向上の基礎になる事業と理解しており、今後もより充実した内容で事業を実施し、学力向上に効果のある事業内容の改善及び新たな事業展開を期待する。また、学推実践報告会(No.1-5)の実施について、これまでの村でまとめて開催されていたものが各校区単位の開催となっているが、より多くの保護者が参加しやすい方法に関係者で検討していただきたい。

博物館所管事業の12事業においては、山田城跡公有地化事業(No.11)をS評価とした。

博物館運営(No.1)、企画展・展示会(No.2)、復帰50年記念事業(No.3)、博物館講座(No.4)、サンセットコンサート(No.5)、恩納村博物館年報(第13号)の刊行(No.6)、地域伝統芸能等保存事業(No.7)、常設展示室リニューアル事業(No.8)、文化財普及事業(No.9)、山田城跡重要遺構確認調査(No.10)の10事業をA評価とした。

恩納村文化財指定業務(No.12)をC評価とした。

S評価の山田城跡公有地化事業は、5年計画で公有地化70%を予定していたが3年で達成できたことを評価した。更に整備に向けた公有地化を図り、村の南の入口の公園整備に向けて取り組んでほしい。

A評価の復帰50年記念事業は、沖縄日本復帰50年を記念し4事業が開催され、次年度は事業は廃止となるが、コロナ禍の前に比べても充実した事業であることを評価した。また、博物館運営、企画展・展示会、博物館講座、サンセットコンサート、恩納村博物館年報(第13号)の刊行、地域伝統芸能等保存事業、常設展示室リニューアル事業、文化財普及事業の8事業は前年度を上回りA評価となったもので、コロナ禍等の前年度の課題克服に向けた取り組みが事業成果に結びついたことを評価した。

C評価の恩納村文化財指定業務は前年度の評価を下回っているが、村指定文化財の新たな指定に向け、住民への聞き取り調査等情報収集を引き続き取り組んでいただきたい。

学校給食センター所管事業の7事業においては、学校給食費完全無償化事業(No.6)をA評価とした。

栄養教室の開催(No.1)、村食材の積極的な活用(No.2)、給食費徴収率の向上(No.4)、恩納村学校給食調理配送業務等民間委託事業(No.7)の4事業をB評価とした。給食センター見学の推進(No.3)、恩納村第3子以降学校給食費免除(No.5)の2事業はC評価とした。

A評価の学校給食費完全無償化事業は、次年度完全無償化が決定した取り組みを評価し、前年度の評価を上回った。

栄養教室の開催、村食材の積極的な活用、給食費徴収率の向上、恩納村学校給食調理配送業務等民間委託事業の4事業は前年度同様にB評価となった。栄養教

室の開催については、学校間で食育授業の開催回数に差があり、学校間で差が出ないように取り組んでもらいたい。

C評価の恩納村第3子以降学校給食費免除事業は前年度と同じ評価となったが、給食費完全無償化が次年度から実施されることになっていることから事業廃止となる。

その他の事業について、審査の過程で多種多様な指摘や提言があり、その全てを列記することは省略し、資料として会議録を添付します。今後の事業展開の参考に供していただきたい。

③ まとめ

この事務事業の点検評価は、前年度に実施した事業について、既に現年度の事業が進んでいる時点で行われなければならないため、外部評価委員の意見が即効性をもって反映されるように、現年度事業の実施途中で中間的評価点検を取り入れ、実効性のある点検及び評価を行い、実施中の事業に反映されることが望ましい。又、事務事業の点検及び評価をすることにより、成果を確認するとともに、課題解決を要する事業については、その課題解決を事業目標に掲げ目標達成に向けて努力をしていく、この繰り返しをしていくことが効率的な事業推進につながる。その結果が次年度以降の教育目標や事業執行、予算等に反映されるとともに、事務事業の改善等に活用されるよう職員が点検評価の趣旨を十分に理解し、村民ニーズに合った高い事業目標を調査及び研究し、常に受益者たる村民の目線で担当する事業を進めていけば、より効果的な事業展開が行われ、本村の更なる教育振興につながる。

令和4年度教育委員会主催の各種事業においては、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の感染防止対策に伴い、幾つかの事業で中止又は縮小があった。これから実施される事業については、外部評価委員会で出た委員の意見を参考にいただき、事務事業の検証及び改善等を検討し、事業実施に役立てていただければと考える。

特に令和5年度は、村行政・村教育行政にとって、今後10年間の将来像及び基本目標を定めた「恩納村第6次総合計画」の出発の年度で、新たな村の将来像に向けて行政が動き出すことになる。これまでの事業評価で外部評価委員や教育委員から出た様々な意見や要望を、参考に取り組んでいただきたい。

最後に、今後なお一層の教育行政関係職員のご活躍をご期待申し上げ外部評価委員会の答申とします。

④ 結びに

教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならないことから今後ともなお一層村民によりわかり易い内容になるよう検討を進めながらその内容の充実に努めていきたいと考えております。

事務事業の点検及び評価は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、教育委員会が教育に関する事務事業の管理及び執行状況を点検及び評価することにより、その成果や課題を確認することで、今後の事務事業の改善に反映させるとともに、具体的、効果的な教育行政の推進を図ることを目的としています。

今回の点検評価で明らかになった課題については、次回の点検評価でその取組みの経緯と結果がわかるよう報告していきたいと思います。また外部評価委員会の意見を謙虚に受け止め、事務事業の改善や効果的な実施と内容の充実に努めてまいります。今後とも更なるご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

令和5年8月

恩納村教育委員会